基本撮影

応用撮影

資料

使用説明書

正しく安全にお使いいただくために

お買い上げありがとうございます。ご使用前にこの使用説明書をよくお読みください。この使用説明書では、正しく安全に製品をお使いいただくために、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示を用いています。よく理解して正しく安全にお使いください。

この表示を無視した取り扱いをすると、人が死亡したり、重症を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視した取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意を促す内容があることを告げるものです。（左図の場合は発熱注意）

⚠ 警告

●指定された電池以外は使わないでください。
●電池の極性（＋／－）を逆に入れないでください。
●電池を火中へ投入したり、充電、ショート、分解、加熱をしないでください。
●新しい電池と古い電池、メーカーや種類の異なる電池を混ぜて使用しないでください。

電池の液漏れ・発熱・破裂の恐れがあります。

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。

他の金属と接触すると発熱・破裂・発火の恐れがあります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄してください。

電池や幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届かないところに保管してください。

幼児が飲み込む恐れがあります。万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。

⚠ 警告

製品および付属品を、幼児･子供の手の届く範囲に放置しないでください。

幼児･子供の近くでご使用になる場合は、細心の注意を払ってください。事故の恐れがあります。

落下や損傷により内部が露出した場合は、すみやかに電池を抜き、使用を中止してください。

感電や火傷の恐れがあります。また内部に手を触れないでください。

分解しないでください。

修理や分解が必要な場合は、当社サービスセンター･サービスステーションにご依頼ください。内部の高圧回路に触れると、感電の恐れがあります。

万一、使用中に高熱、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き、使用を中止してください。

放置すると火災や火傷の原因となります。

ファインダーを通して直接太陽を見ないでください。

失明の恐れがあります。

⚠ 注意

直射日光の当たる場所に放置しないでください。

太陽光が近くのものに結像すると、火災の原因となります。やむを得ず直射日光下に置く場合は、レンズキャップを取り付けてください。

目次

各部の名称 …… 4

基本撮影

ストラップの取り付け方 …… 9
電池の入れ方 …… 10
電池容量の確認 …… 11
視度調整（ファインダーを見やすくします） …… 12
レンズの取り付け方／取り外し方 …… 13
フィルムの入れ方 …… 14
カメラの構え方 …… 16
シャッターボタンの半押し …… 16
基本撮影（全自動で撮影します） …… 17
ピント合わせ
フォーカス表示 …… 20
オートフォーカスの苦手な被写体 …… 20
写したいものが画面中央にないときは（フォーカスロック） …… 21
内蔵フラッシュ撮影
フラッシュ表示 …… 22
フラッシュ調光距離（フラッシュ光の届く範囲） …… 23
フィルムの巻き戻し …… 24
最後のコマまで撮影せずに途中で取り出したいときは …… 25

応用撮影

フォーカス（ピント合わせ） 27
オートフォーカスモード …… 28
フォーカスフレームの選択 …… 30
ローカルフォーカスフレームの選び方 …… 31
フォーカスロック（ピントの固定） …… 32
マニュアルフォーカス（手動ピント合わせ） …… 33
AF補助光 …… 34

露出モード 35
A（絞り優先）モード撮影 …… 36
S（シャッター速度優先）モード撮影 …… 38
M（マニュアル）モード撮影 …… 40

測光・露出 43
測光方式 …… 44
露出補正 …… 46
AEロック撮影（露出の固定） …… 48
フィルム感度の設定と変更 …… 50

応用撮影

巻き上げ 51
連続撮影 …… 52
セルフタイマー撮影／簡易ミラーアップ機能 …… 54
ブラケット（露出ずらし）撮影 …… 56
多重露光 …… 58

フラッシュ撮影 59
フラッシュモード選択スイッチ …… 60
赤目軽減フラッシュ撮影 …… 61
シンクロターミナル …… 61
スローシンクロ撮影（夜景を背景にしたフラッシュ撮影） …… 62
後幕シンクロ撮影 …… 63
フラッシュブラケット撮影 …… 64
フラッシュ調光補正 …… 66
ハイスピードシンクロ（HSS）撮影 …… 67
ワイヤレスフラッシュ撮影 …… 68

撮影データメモリー 73
撮影データの記録 …… 74
フィルムエリア …… 75
撮影データの読み出し …… 76
撮影データの消去 …… 79

カスタム設定 80
カスタム設定方法 …… 81
カスタム設定一覧表 …… 82
カスタム設定詳細 …… 84

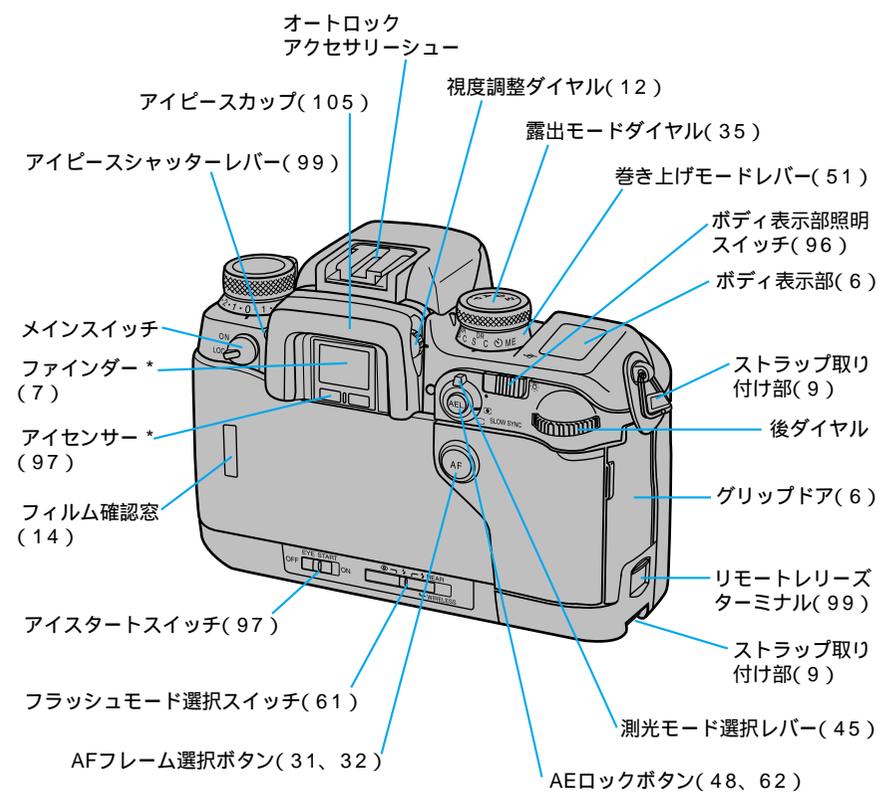
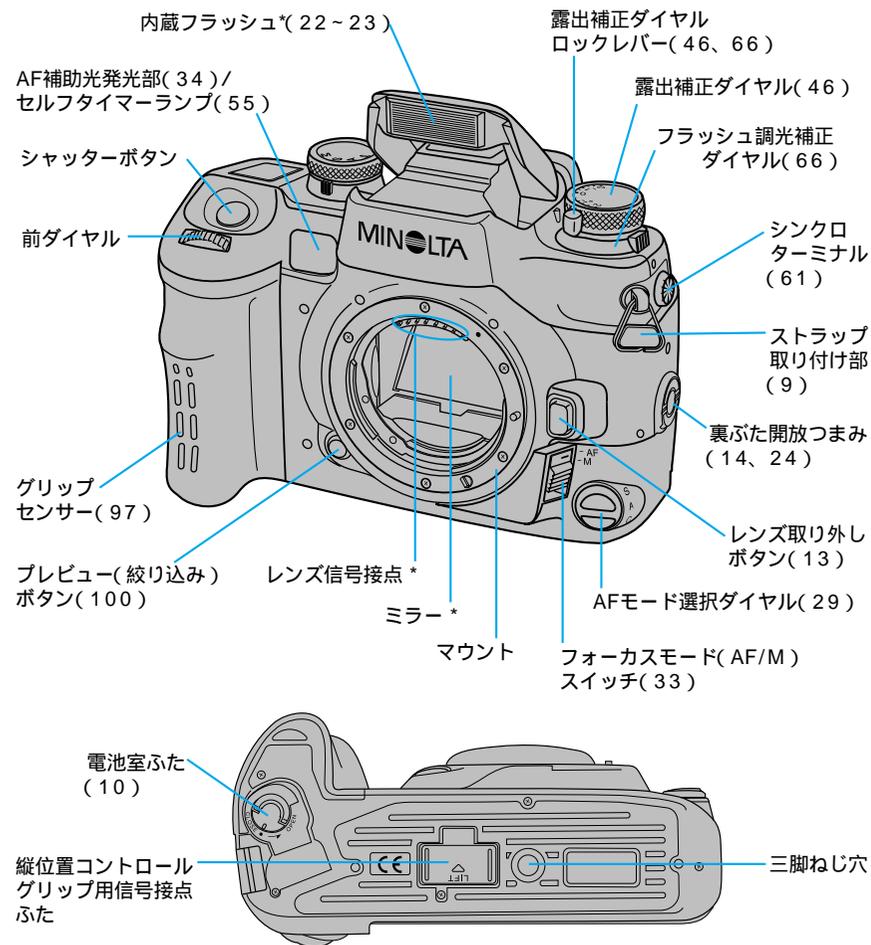
その他 96
ボディ表示部照明 …… 96
アイスタート（カメラを構えるだけで撮影準備が完了します） …… 97
長時間露光（バルブ撮影） …… 98
プレビュー（絞り込み） …… 100

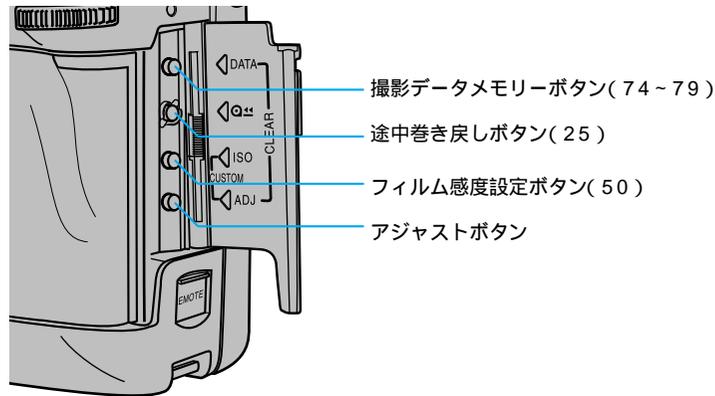
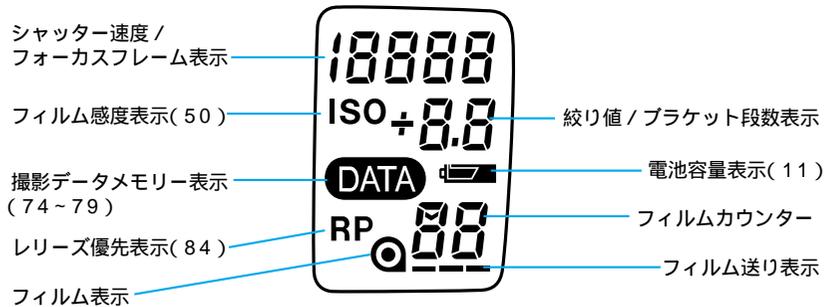
資料

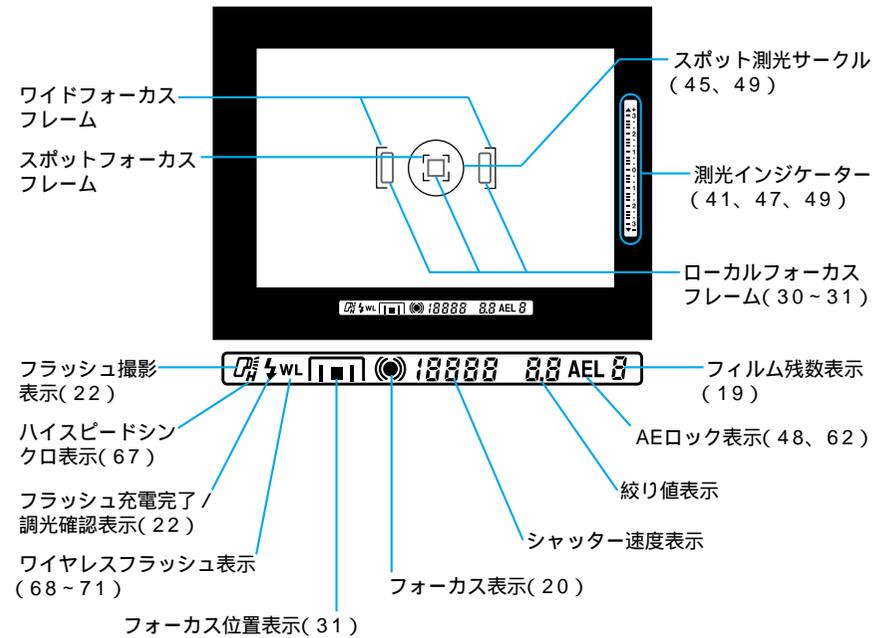
α-9専用アクセサリー …… 102
その他のアクセサリー …… 104
表示が点滅したときは（露出の警告） …… 106
不具合が生じたときは …… 107
取り扱い上の注意 …… 108
手入れと保管の仕方 …… 109
主な性能 …… 110
索引 …… 112

各部の名称

*印のついたところは、直接手で触れないでください。
（　）内は参照ページです。

カメラボディ

※ボディ表示部の左下の ⊖ はフィルム面位置を表します。

グリップドア

ボディ表示部

※6、7ページの図では、説明のためすべての表示を点灯させています。

ファインダー表示部

フォーカス表示

● 点灯	ピントが合っています
点灯	ピントが合っています。被写体の動きに合わせてピント位置が変わります
点灯	ピント合わせの途中で、シャッターは切れません
● 点滅	ピントが合わず、シャッターは切れません

フラッシュ撮影表示・フラッシュ充電完了／調光確認表示

点灯	フラッシュ撮影になります
、両方点灯	フラッシュの充電が完了しました
点滅（撮影後）	フラッシュ光が被写体に届きました

お買い上げありがとうございます。

α-9は、ミノルタの最高級オートフォーカス一眼レフカメラとして開発されました。ファインダーには正確なフレーミングが可能な視野率100%ファインダーを搭載し、ボディ外装材には強度が高く信頼性に優れたステンレスや亜鉛ダイキャストを採用しています。
5.5コマ／秒（AF追随4.5コマ／秒）のフィルム巻き上げ、最高速1/12000秒のシャッター速度、1/300秒のフラッシュ同調速度により、写真の表現の幅を広げ、リズミカルな撮影感覚を実現させました。オートフォーカスには中央がクロスタイプの3点AFセンサーを採用し、フォーカス性能をより向上させています。カメラ操作は分かりやすいダイヤル式を基本にまとめ、同時に防塵防滴性に配慮した設計としました。また、さまざまなご要望にも対応できる充実したカスタム設定機能や、撮影データメモリーバック・縦位置コントロールグリップ等の専用アクセサリーも揃えています。

ご使用前に、この使用説明書をよくお読みいただき、末永くこの製品をご愛用ください。

このカメラには、当社のボディ特性に適合するように設計された当社製のレンズおよびアクセサリーの使用をおすすめします。他社製品と組み合わせた場合の性能や、それによって生じた事故や故障につきましては保証いたしかねますので、あらかじめご了承ください。

この使用説明書について

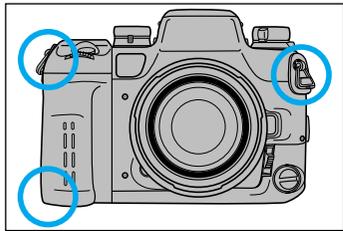
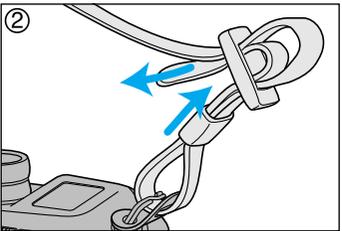
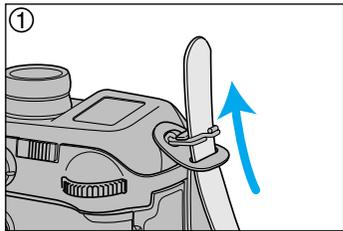
基本撮影
撮影にあたって、これだけはぜひ知っておいていただきたいことをまとめています。ご使用前に一通り目を通してください。

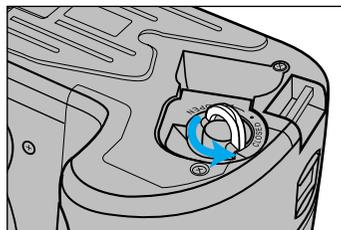
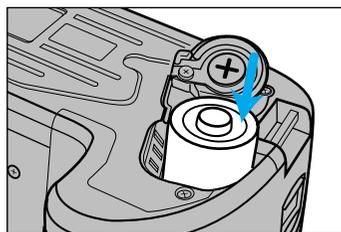
応用撮影
ピント合わせ、測光、巻き上げモードなど、このカメラの詳細を項目別に説明しています。必要に応じて必要な部分のみお読みください。

資料
カメラの操作方法以外の情報をまとめています。

基本撮影

この章では、カメラの準備および最も基本的な撮影方法を説明しています。

ストラップの取り付け方

このカメラにはストラップ取り付け部が３ヵ所あります。お好みの２ヵ所を選んで取り付けてください。

電池の入れ方

3Vリチウム電池CR123Aを2個使用します。

1. 電池室ふたのつまみを上げ、「OPEN」の方向に回してふたを開けます。

2. 電池室ふたの表示にしたがって電池を入れます。

3. ふたを閉め、つまみを「CLOSE」の位置まできっちり回します。

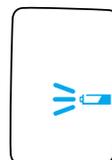
● 別売りの縦位置コントロールグリップVC-9を取り付ければ、リチウム電池2CR5、単3アルカリ乾電池、単3ニッカド（Ni-Cd）電池を使用することもできます。

電池容量の確認

メインスイッチをONにしていると、電池の容量が常にボディ表示部に表示されます。

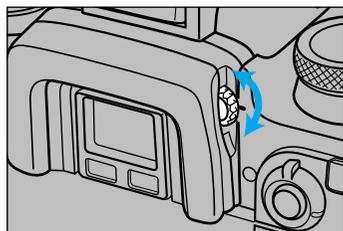
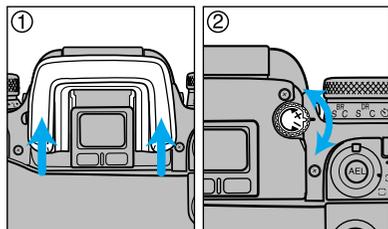
点灯—— 電池容量は十分です。

点灯—— 新しい電池の準備をおすすめします。この状態でも撮影はできます。

点滅—— 電池の交換をおすすめします。この状態でも撮影はできます。

のみ点滅（他の表示すべて消灯）—— 新しい電池と交換してください。シャッターは切れません。

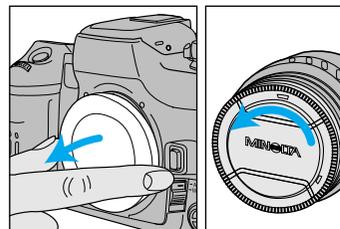
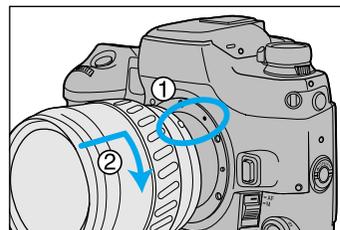
● メインスイッチをONにしても何も表示されないときは、電池の向きを確認してください。

視度調整（ファインダーを見やすくします）

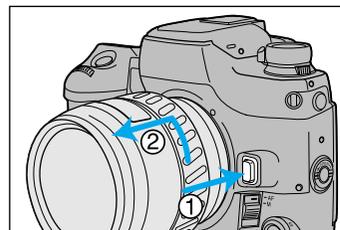
目の調子によりファインダー内の像がはっきりと見えないときは、ファインダーの視度を調整して見やすくすることができます。

ファインダーをのぞいて、フォーカスフレームがはっきり見えるように、視度調整ダイヤルを回します。

● アイピースカップを外すと回す方向が分かります①。遠視の場合は＋方向へ、近視の場合は－方向へ回してください②。

● レンズを外した状態で、カメラをできるだけ明るいところに向けると、視度が合わせやすくなります。
● 別売りの視度調整アタッチメント1000を併用することもできます。カメラ本体の視度調整機能を用いてもはっきりと見えない場合にお使いください。近視用4種類、遠視用5種類があります。

レンズの取り付け方／取り外し方

取り付け方

1. カメラのボディキャップ、レンズの後キャップを外します。

2. レンズとカメラの2つの赤い点を合わせてはめ込み①、レンズを軽くカメラに押し付けながら、カチッと音がするまで時計方向に回します②。

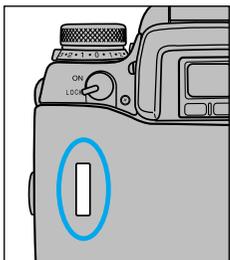
● レンズを取り付けるときは、レンズ取り外しボタンを押さないでください。

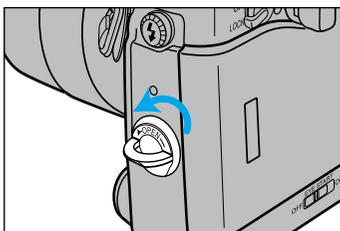
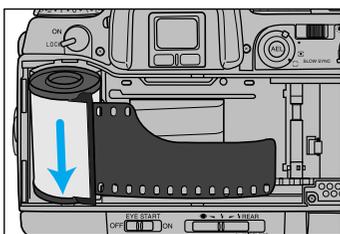
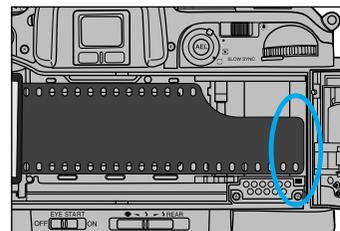
取り外し方

レンズ取り外しボタンを押しながら①、レンズを矢印の方向に止まるまで回して取り外します②。

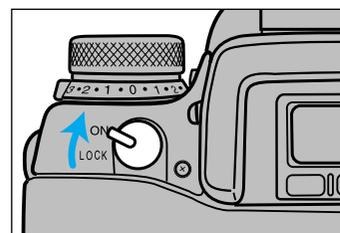
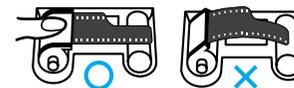
● 取り外した後は、カメラ側・レンズ側ともキャップを付けて保管してください。

● カメラの内部、特にレンズ信号接点やミラーに触れたり傷をつけたりしないように、また内部に水滴・砂・ホコリが入らないように気を付けてください。
● レンズに無理な力を加えないでください。
● フラッシュを使わずに撮影する場合は、画面外にある光が描写に影響するのを防ぐために、レンズフードの使用をおすすめします。レンズフードは、レンズの使用説明書をご覧の上、正しく装着してください。

フィルムの入れ方

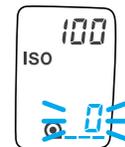
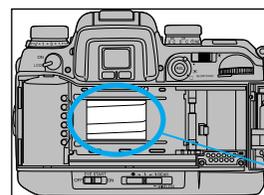
ご購入後初めてカメラをご使用になるときは、フィルムを入れる前に、裏ぶたの内側の保護シートを取り外してください。

フィルム確認窓でカメラの中にフィルムが入っていないことを確認してから、裏ぶたを開けてください。

- DXコード付きのフィルムの場合、フィルム感度は自動的に設定されます。フィルム感度の変更および設定については50ページをご覧ください。
- ポラロイドインスタントリバーサルフィルムは、巻き上げの問題が起こることがあるため、ご使用になれません。
- フィルムの出し入れは、直射日光を避けて行ってください。

1.裏ぶた開放つまみを「OPEN」の方向に回して、裏ぶたを開けます。

2.フィルムを図のように入れます。

3.フィルムの先端を赤いマークの範囲内に合わせます

- フィルムが浮き上がらないようにパトローネ（フィルム容器）を押さえてください。

4.裏ぶたを閉じます。

5.メインスイッチをONにします。

- フィルムが自動的に巻き上げられます。

- フィルムが正しく巻き上げられていれば、フィルム感度と◎__1が表示されます（フィルム感度は5秒間のみ表示）。

- フィルムが正しく送られていない場合、フィルムカウンターの__0が点滅します。このときは、裏ぶたを開けてフィルムを取り出し、もう一度入れ直してください。

シャッター幕は非常に薄く精巧に作られています。フィルムを入れる際に、手やフィルムの先が絶対に触れないように注意してください。

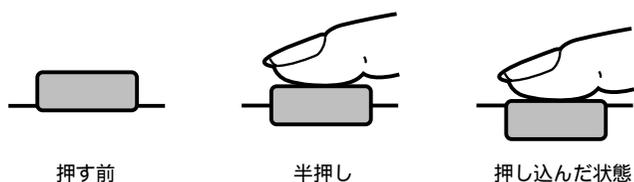
シャッター幕

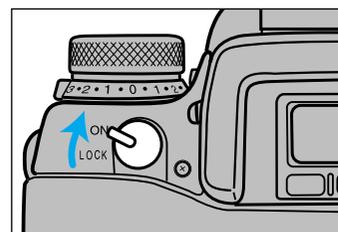
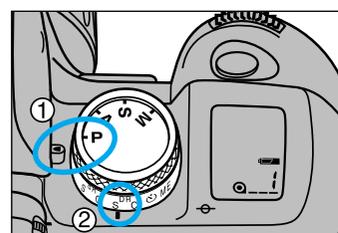
- DXコードの付いていないフィルムを入れた場合、フィルム感度は直前に入れていたフィルムの感度になり、撮影枚数は36枚撮りとみなされます。よって37コマ以上の手巻きフィルムなどを入れた場合、36枚目を撮影すると自動的に巻き戻しが始まります。

カメラの構え方

カメラが少しでも動くとぶれた写真になりますので、しっかりと構えて撮影してください。

- 右手でカメラのグリップを持ち、脇を閉め、左手でレンズの下側をもって支えます。
- 片足を軽く踏み出し、上半身を安定させます。壁にもたれたり、机などに肘をついたりしても効果があります。
- 暗い場所でフラッシュを使用しないで撮影する場合や、望遠レンズを使う場合は、手ぶれが起こりやすくなります。このような場合は三脚などにカメラを固定して撮影してください。
- 別売りの縦位置コントロールグリップVC-9を使用すると、縦位置でも横位置と変わらない操作性を保つことができます。

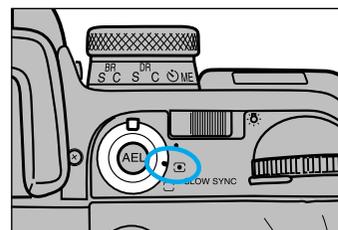
シャッターボタンの半押し

シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。この使用説明書ではここまで押すことを「半押し」と呼んでいます。

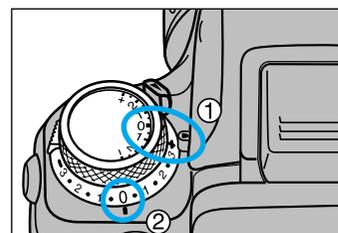
基本撮影（全自動で撮影します）

1. メインスイッチをONにします。

2. カメラを自動設定にします。

露出モードダイヤルをPにします①。

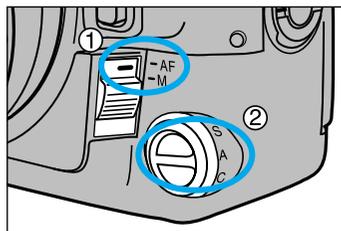
- シャッター速度と絞り値が自動的に決まるPモードになります。

巻き上げモードレバーをDR Sにします②。

- 1コマ撮影になります。

測光モードレバーを◉にします。

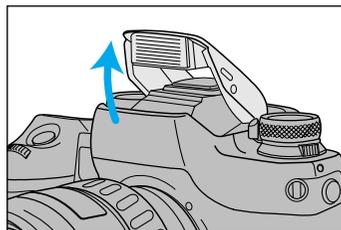
- 14分割ハニカムパターン測光になります。

露出補正ダイヤルを0にします①。

フラッシュ調光補正ダイヤルを0にします②。

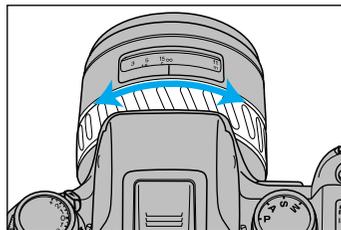
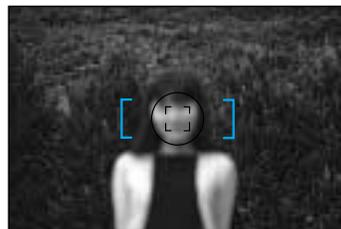
次ページへ続く

フォーカスモード（AF/M）スイッチをAFにします①。

● オートフォーカスになります。

AFモード選択ダイヤルをAにします②。

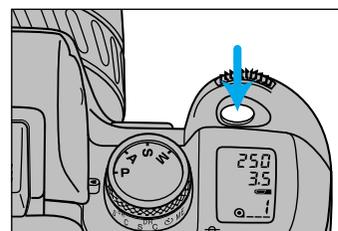
● オートフォーカスモードが自動になり、被写体が静止しているか動いているかをカメラが自動的に判別します。

3. フラッシュを発光させる場合は、フラッシュを上げます。

● カメラ背面のフラッシュモード選択スイッチが⚡になっているのを確認してください。

● 内蔵フラッシュ撮影については、22ページをご覧ください。

4. 撮影したいものが希望の大きさになるように、レンズのズームリングを回します（ズームレンズ使用時のみ）。

5. 被写体がフォーカスフレーム[　　]に入るようにカメラを構えます。

6. シャッターボタンを半押しします。

● 自動的にピントが合います。

● ピントが合った部分のローカルフォーカスフレームが、一瞬赤く点灯します。

7. シャッターボタンをゆっくり押し込んで撮影します。

基本撮影

撮影中のフィルムの残りコマ数が9枚以下になると、ファインダー内に残りコマ数が表示されます。

● DXコードの付いていないフィルム、またDXコードがあってもフィルム枚数情報を持っていないフィルムの場合は、表示されません。

● 規定枚数以上の撮影はできません。

● このカメラのファインダー視野率は約100%です（50mm/F1.4、∞位置）。ファインダーをのぞいて見た視野と実際のフィルム上での撮影画面はほぼ同じですが、リバーサルフィルムをマウントしたり、ネガフィルムをプリントしたりすると、画面の周囲がカットされ、実際の撮影画面よりも狭くなることがあります。
※ 別売りの交換用フォーカシングスクリーン9のL型・S型では、方眼または目盛りの最終端が視野率約95%位置の目安となります。

ピント合わせ

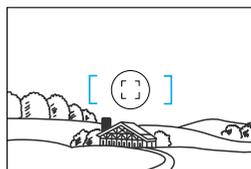
フォーカス表示

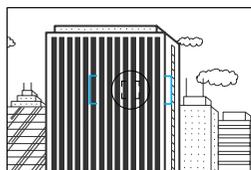
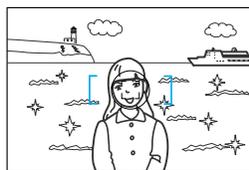
シャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行われ、ファインダー内のフォーカス表示がその状態をお知らせします。

● 点灯	ピントが合っています。
(●) 点灯	ピントが合っています。被写体の動きに合わせてピント位置が変わります。
( ) 点灯	ピント合わせの途中で、シャッターは切れません。
● 点滅	ピントが合わず、シャッターは切れません。

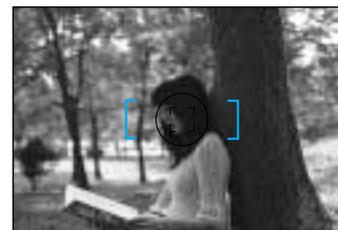
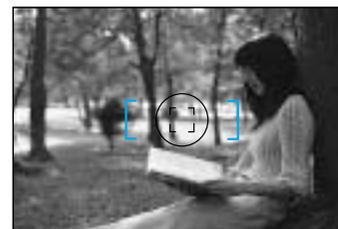
● ファインダー内フォーカス表示 ● が点滅したときは
- オートフォーカスの苦手なもの（以下参照）、またはレンズの最短撮影距離よりも近いものを撮ろうとしていないか確認してください。
- この状態でもシャッターが切れるようにしたいときは、レリーズ優先にしてください（81、84ページ参照）。

オートフォーカスの苦手な被写体

オートフォーカスのピント合わせは被写体のコントラスト（明暗差）を利用しています。したがって、次のような被写体ではオートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。このような場合は、写したいものと同じ距離にある別のものにピントを合わせてから撮影してください（次ページ参照）。

青空や白壁などコントラスト（明暗差）のないもの

おりの中の動物など、[　]の中に距離の異なるものが混じっているとき

ビルの外観など、繰り返しパターンの連続するもの

太陽のように明るい被写体や、車のボディ、水面などきらきら輝いているもの

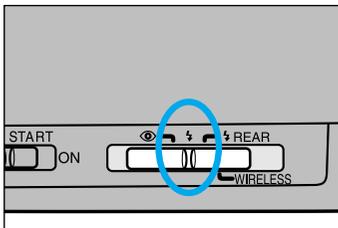
写したいものが画面中央にないときは（フォーカスロック）

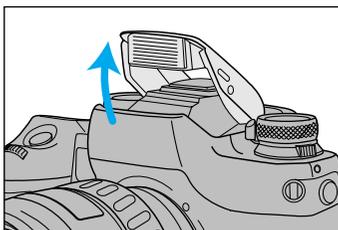
ピントを合わせたいものが[　]に入らないときに、そのまま撮影すると、[　]と重なっている背景にピントが合って人物がぼけた写真になってしまいます。このようにピントを合わせたいものが[　]の位置にないときは、次のようにしてピントを固定（フォーカスロック）して撮影してください。

1. ピントを合わせたいものにフォーカスフレーム[　]を合わせ、シャッターボタンを半押しします。

2. シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図にします。

3. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

- ピントと同時に露出も固定されます（14分割ハニカムパターン選択時のみ）。
- 撮影後、シャッターボタンから指を離すと、ピントの固定は解除されます。撮影後も指を離さずにそのまま半押し状態に戻すと、同じピント位置で連続して撮影できます。
- フォーカス表示 ● が点灯しないとき（被写体が動いているとき）は、シャッターボタン半押しによるフォーカスロック撮影はできません。
- カメラのAFフレーム選択ボタンでピントを固定（フォーカスロック撮影）することもできます（32ページ参照）

内蔵フラッシュ撮影

このカメラには、24mmレンズの画角をカバーするガイドナンバー12（ISO 100）の内蔵フラッシュが搭載されています。フラッシュを上げていると必ず発光します。

1. カメラ背面のフラッシュモード選択スイッチを⚡にします。

● ⚡以外の説明については、60ページをご覧ください。

2. フラッシュを上げます。

フラッシュ表示

シャッターボタンを半押しすると、ファインダー内に以下のフラッシュ表示が現れます。

点灯	フラッシュ撮影になります
、⚡ 両方**点灯**	フラッシュの充電が完了しました
⚡ **点滅**（撮影後）	フラッシュ光が被写体に届きました

● 撮影後⚡が点滅しなかったときは、フラッシュ光が被写体に届いていません。次ページの表でフラッシュ光の届く範囲を確認してください。

フラッシュ調光距離（フラッシュ光の届く範囲）

内蔵フラッシュの光が届く範囲には限度があり、絞り値とフィルム感度によって異なります。以下の表を目安にしてください。

	フィルム感度	
絞り値	ISO 100	ISO 400
F2.8	1.0 ～ 4.3 m	1.0 ～ 8.6 m
F3.5	1.0 ～ 3.4 m	1.0 ～ 6.8 m
F4	1.0 ～ 3.0 m	1.0 ～ 6.0 m
F5.6	1.0 ～ 2.1 m	1.0 ～ 4.3 m

内蔵フラッシュ使用時の注意

内蔵フラッシュで撮影する場合は、フラッシュ光がレンズでさえぎられて、写真の下部に影ができることがあります。以下の点に気を付けて撮影してください。

● 被写体から1m以上離れて撮影してください。

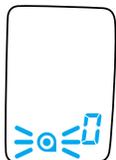
● レンズフードは取り外してください。

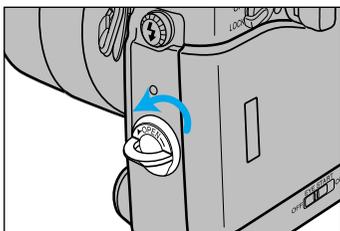
● 下記のレンズで内蔵フラッシュ撮影するときは、広角側でフラッシュ光がレンズでさえぎられることがありますので、フラッシュ撮影には別売のプログラムフラッシュの使用をおすすめします。詳しくは裏表紙記載の弊社フォトサポートセンターにお問い合わせください。
・AFズーム17-35mm F3.5G　・AFズーム28-85mm F3.5-4.5
・AFズーム28-70mm F2.8G　・AFズーム28-135mm F4-4.5

● 下記のレンズ使用時は、フラッシュ光がレンズでさえぎられるため、内蔵フラッシュによる撮影はできません。
・AFアポテレ300mm F2.8（ハイスピードタイプを含む）
・AFアポテレ600mm F4（ハイスピードタイプを含む）

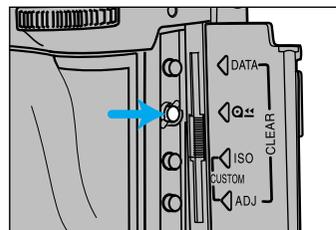
● このカメラの内蔵フラッシュは、焦点距離24mmの画角をカバーします。24mm未満の広角レンズで内蔵フラッシュ撮影をすると、写真の周辺まで光が届かず、暗くなることがあります。

フィルムの巻き戻し

フィルムの最後のコマを撮影すると、自動的に巻き戻しが始まります。

1.巻き戻しの終了を待ちます。

● フィルムカウンターが「0」になり、◎が点滅したら巻き戻しは終了です。

2.裏ぶた開放つまみを「OPEN」の方向に回して裏ぶたを開け、フィルムを取り出します。

● 最後のコマを撮影しても自動的に巻き戻しが始まらないようにすることもできます（81、84ページ参照）。
● 巻き戻した後のフィルムの先端が残るように（パトローネ内に巻き込まれてしまわないように）することもできます（81、84ページ参照）。
● 巻き戻しの初期設定は高速巻き戻しです。巻き戻し中に途中巻き戻しボタンを押すと、低速（サイレント）巻き戻しと高速巻き戻しを切り替えることができます。低速（サイレント）巻き戻しでは、巻き戻しの時間は長くなりますが、音を小さくすることができます。最初からどちらの設定を選んでおくことも可能です（81、90ページ参照）。

最後のコマまで撮影せずに途中で取り出したいときは

グリップドアを開け、途中巻き戻しボタンを押します。

● 途中で取り出したフィルムをもう一度カメラに入れる場合、撮影者が指定したコマまで簡単にフィルムを進める機能（フィルム指定コマ送り機能）を選ぶこともできます（81、85ページ参照）。

応用撮影

この章では、カメラの各機能の詳細を説明しています。

フォーカス・・・27～34ページ
オートフォーカスの説明、マニュアルフォーカスなど、ピントに関係することを説明しています。

露出モード・・・35～42ページ
AモードやMモード等、シャッター速度や絞り値を変えて撮影できます。

測光・露出・・・43～50ページ
スポット測光などの測光方式や、露出補正など、露出全般に関することを説明しています。

巻き上げ・・・51～58ページ
セルフタイマー、ブラケット（露出ずらし）撮影、多重露光など、巻き上げモードレバーで選択できる各種機能について説明しています。

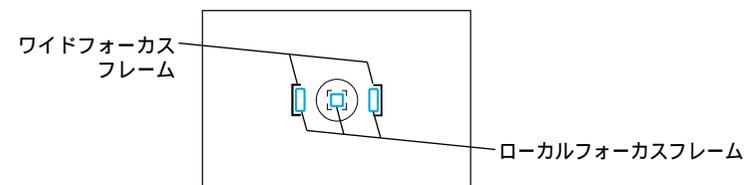
フラッシュ・・・59～72ページ
フラッシュ撮影に関することはここをご覧ください。

撮影データメモリー・・・73～79ページ
撮影時の各種データをカメラに記録することができます。

カスタム設定・・・80～95ページ
撮影者のお好みの状態にカメラの各種設定を変更できます。

その他・・・96～100ページ

フォーカス（ピント合わせ）

このカメラでは、ピントを合わせる範囲が広いワイドフォーカスフレームを採用、動きが激しい被写体でもピント合わせが容易に行えるようになっています。実際のピント合わせは、ワイドフォーカスフレーム内の3ヵ所のセンサーのうちのどれかで行われます。シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせに使われたセンサー部（ローカルフォーカスフレーム）が、一瞬点灯してお知らせします。撮影者が任意のローカルフォーカスフレームを指定することもできます（31ページ参照）。

被写体が動いているか静止しているかは、カメラが自動的に判断します。シャッターボタンを半押しすると、被写体が動いていればピントを合わせ続け、静止していればピントが固定されます。撮影者が任意のモードを指定することもできます（28～29ページ参照）。

被写体が動いている場合は、マルチ動体予測フォーカス制御により、常にピントの合った写真を撮ることができます。シャッターボタンを押してからシャッター幕が走行するまでの被写体の移動量を予測し、正確にピントを合わせ続けます。近づいてくる被写体、遠ざかる被写体はもちろん、横切って行く被写体に対しても有効です。

この他にも、マニュアルフォーカス（33ページ）、暗中でもオートフォーカスが可能なAF補助光（34ページ）など、さまざまな機能を備えています。

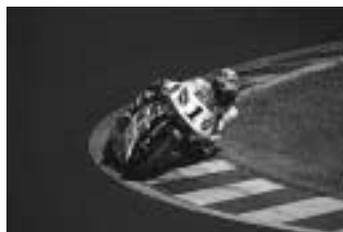
オートフォーカスモード

このカメラには、以下の3つのオートフォーカスモードがあり、撮影者の意図や使い方に応じて切り替えることができます。

AF制御自動切り替え（A）	あらゆる被写体に対して有効です。
コンティニュアスAF（C）	動く被写体を撮影するのに便利です。
ワンショットAF（S）	静止している被写体を撮影するのに適しています。

AF制御自動切り替え（A）

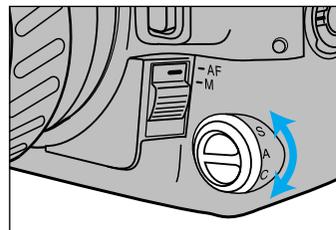
被写体の動きに応じて、コンティニュアスAFとワンショットAFとが自動的に切り替わります。
被写体が動いているときは、シャッターボタンを半押ししている間ピントを合わせ続けます。
被写体が静止しているときは、シャッターボタン半押しで一度だけピントを合わせ、そこで固定（フォーカスロック）します。
シャッターチャンスを逃すことなく撮影に専念でき、人物撮影や記念撮影からスナップ、風景写真など幅広いシーンでお使いいただけます。

コンティニュアスAF（C）

シャッターボタンを半押ししている間ピントを合わせ続けます。
運動会、競馬、鉄道写真、カーレースなど、動きの激しい被写体を撮影するときに効果を発揮します。

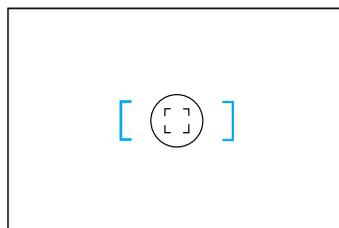
ワンショットAF（S）

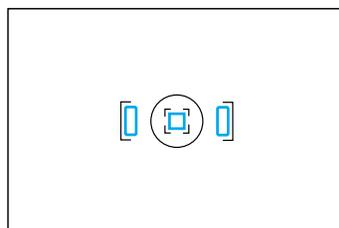
シャッターボタン半押しで一度だけピントを合わせ、そこで固定（フォーカスロック）します。
建築物や美術品、静物、接写・複写など、静止している被写体の撮影に適しています。

- 連続撮影（52ページ参照）の場合、ワンショットAF（S）にすると、連続撮影の最高速度（5.5コマ／秒）を得ることができます。

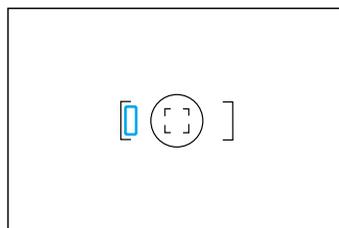
オートフォーカス（AF）モードの切り替え方

AFモード選択ダイヤルをA、C、またはSに合わせます。

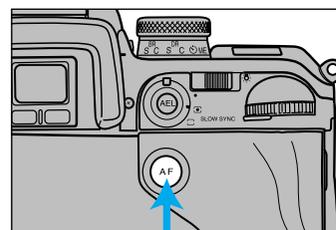
- マニュアルフォーカス（手動ピント合わせ）になっているときは、この設定は関係ありません。

フォーカスフレームの選択

ワイドフォーカスフレーム

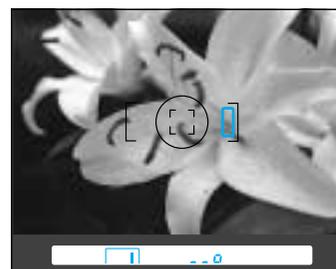
このカメラでは、ピントを合わせる範囲が広いワイドフォーカスフレームを採用、動きが激しい被写体でもピント合わせが容易に行えるようになっています。

ローカルフォーカスフレーム

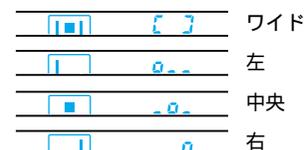
ワイドフォーカスフレーム内には3ヵ所のセンサーがあり、センサーのある位置はローカルフォーカスフレームで表されています。被写体の位置に応じて、3ヵ所のセンサーのうちのどれかが働いてピントを合わせます。シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせに使われたセンサー位置のローカルフォーカスフレームが一瞬点灯して、どの部分にピントが合っているかをお知らせします。

● AFモード選択ダイヤルがC（コンティニュアス）になっているときは、ローカルフォーカスフレームは点灯しません。また、連続撮影時や被写体が動いているとき、シャッターボタンを一気に押し込んだときなども、点灯しないことがあります。
● ローカルフォーカスフレームの点灯時間を変更したり、シャッターボタンを押しても点灯しないようにすることもできます（81、91ページ参照）。

3つのローカルフォーカスフレームのうち、撮影者が任意のフレームを指定することもできます。画面の特定の位置にピントを合わせたいときに便利です（次ページ参照）。

ローカルフォーカスフレームの選び方

1. AFフレーム選択ボタンを押します。

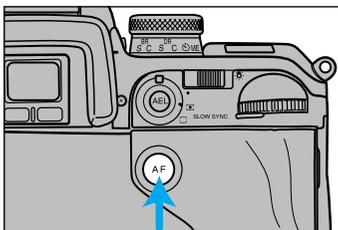
● ピントが固定され（フォーカスロック）、ピント合わせに使われたローカルフォーカスフレームが点灯します。

ワイド
左
中央
右

2. AFフレーム選択ボタンを押したまま前ダイヤルを回して、希望のフォーカスフレームを選びます。

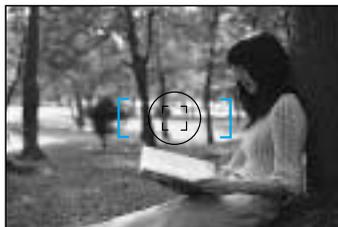
● AFフレーム選択ボタンを押している間は、ファインダー内に現在選んでいるフレームが表示されます。
● AFフレーム選択ボタンから手を離しても、シャッターを切っても、選んだフォーカスフレームはそのまま残っています（ファインダー下部のフォーカス位置表示［I■I］で確認できます）。

● ワイドフォーカスフレームに戻すときは、上記の操作を繰り返して［I■I］を選んでください。
● AFフレーム選択ボタンを押している間、中央のローカルフォーカスフレームのみ機能するようにカメラの設定を変えることもできます（81、88ページ参照）。
● AFレフレックス500mm F8およびAFパワーズーム35-80mm F4-5.6を使用しているときは、中央のローカルフォーカスフレームのみ使用できます。

フォーカス

フォーカスロック（ピントの固定）

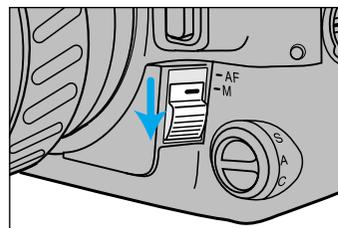
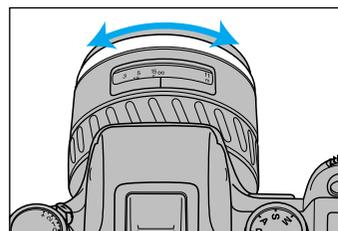
ピント位置を一時的に固定することができます。

1. ピントを合わせたいものにフォーカスフレーム［　］を合わせ、AFフレーム選択ボタンを押します。

- ピントが固定され、ピント合わせに使われたローカルフォーカスフレームが点灯します。
- 被写体が動いているときやコンティニュアスAFにしているときでも、ピントは固定されます。

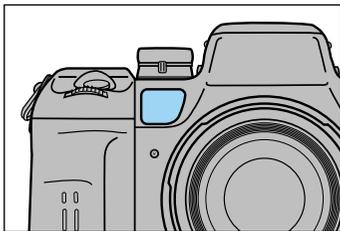
2. AFフレーム選択ボタンを押したまま、必要ならば構図を変えて撮影します。

- 撮影後、AFフレーム選択ボタンから指を離すと、ピントの固定は解除されます。撮影後もAFフレーム選択ボタンを押し続けていると、同じピント位置で連続して撮影できます。
- ピントと同時に露出も固定されます（14分割ハニカムパターン選択時のみ）。AFフレーム選択ボタンを押したまま撮影を続けると、被写体の明るさが変わると適正露出が得られないことがあります。
- シャッターボタンを半押ししてピントを固定する方法もあります（21ページ参照）。どちらもほとんど同じですが、AFフレーム選択ボタンを使うと、被写体が動いているときやコンティニュアスAFにしているときでもピントを固定することができます。

- AFフレーム選択ボタンを押したときに希望の位置でピント合わせが行われなかった場合、そのまま前ダイヤルを回すと、ピントを合わせるローカルフォーカスフレームを変えることができます（前ページ参照）。

マニュアルフォーカス（手動ピント合わせ）

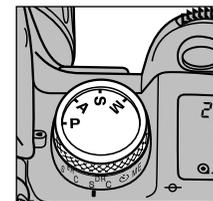
オートフォーカスを使わずに、マニュアル（手動）で自由にピントを合わせることもできます。

1. フォーカスモード（AF/M）スイッチをM側にします。

2. 被写体が最もはっきり見えるように、レンズのフォーカスリングを左右に回します。

- オートフォーカスでピントが合うような被写体の場合は、ピントが合うと、ファインダー内のフォーカス表示 ● が点灯します。
- フォーカスモード（AF/M）スイッチをAF側にすると、オートフォーカスに戻ります。
- AFズームXiレンズ・AFパワーズームレンズをお使いの場合は、フォーカスモードスイッチをAF側にしたままで、ズームリングをカメラ側に引き、そのまま左右に回します。被写体が最もはっきり見えるところでシャッターボタンを押して撮影してください。
- 14分割ハニカムパターン測光（44ページ参照）はオートフォーカスと連動しているため、マニュアルフォーカスでは使用できません。マニュアルフォーカス時に14分割ハニカムパターン測光を選択していると、中央重点的平均測光に近い測光が行われます。

AF補助光

被写体が暗いときやコントラスト（明暗差）が小さいときは、シャッターボタンを半押しすると、カメラ前面の赤いランプが光ることがあります。これは、オートフォーカスでピントを合わせやすくするためのAF補助光です。

● AFフレーム選択ボタンを押したときにも、AF補助光が光ることがあります。
● 補助光の届く範囲は、約0.7～7mです（当社試験条件による）。
● プログラムフラッシュを取り付けているときは、プログラムフラッシュのAF補助光が発光することもあります。
● オートフォーカスモードをコンティニュアスAF（C）にしているときや、被写体が動いているとき（ファインダー表示(◉)が点灯しているとき）は、補助光は発光しません。
● レンズの焦点距離が300mm以上のときは、AF補助光は発光しないことがあります。AFマクロズーム3×－1×使用時にも、AF補助光は発光しません。

露出モード

同じシーン、同じ被写体でも、シャッター速度や絞り値を変えると写真の描写が変わります。露出モードを変えることで、シャッター速度と絞り値のどちらか一方、あるいは両方を自分で決めることができます。
このカメラには、以下の４つの露出モードがあります。

P（プログラム）モード

撮影シーンに適した絞り値とシャッター速度が自動的に決まります。シャッターチャンスに専念することができ、スナップ写真など一般撮影に最適です。

● Pモードで、ダイヤルを回して絞り値とシャッター速度の組み合わせを変えることもできます（PA/PSシフト、81、93ページ参照）。

A（絞り優先）モード（36ページ）

撮影者が希望の絞り値を決めることができます。カメラが自動的にシャッター速度を決めます。ポートレート撮影など、絞りの効果を生かして背景のぼけ具合をコントロールしたいときなどに使います。

S（シャッター速度優先）モード（38ページ）

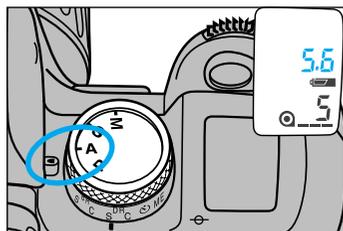
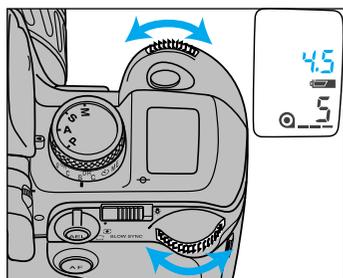
撮影者が希望のシャッター速度を決めることができます。カメラが自動的に絞り値を決めます。スポーツ撮影など、シャッター速度の効果を生かして動くものを止めて表現したり、逆に流動感を表現したいときなどに使います。

M（マニュアル）モード（40ページ）

撮影者が絞り値とシャッター速度の両方を決めます。絞り値とシャッター速度の両方を固定したままで撮影したいときや、単体の露出計で測った値で撮影するときに使います。

● 露出モードダイヤルを回すときに、その下の巻き上げモードレバーを一緒に回さないようにしてください。

A（絞り優先）モード撮影

撮影者が希望の絞り値を決めることができます。絞り値が変わると被写体以外のもののピントの状態が変わり、背景をぼかしたり、くっきり写したりすることができます。絞り値を大きくすると近くのものから遠くのものまでくっきりと写り、小さくすると被写体以外のものがぼけやすくなります。

1.露出モードダイヤルをAにします。

2.前または後ダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。

●露出補正ダイヤルが1/2段ステップ（1/2段刻み）になっているときは1/2段ごとに、1/3段ステップのときは1/3段ごとに絞り値が変わります（47ページ参照）。

●シャッター速度が12000または30 ”で点滅している場合は、カメラの制御範囲を越えているため、露出オーバーまたは露出アンダーの写真になります。点滅しなくなるまで絞り値を変更してください。

Aモードフラッシュ撮影

内蔵フラッシュを上げて（またはプログラムフラッシュをONにして）撮影します。

●撮影方法は、フラッシュなしの場合と同じです。

●絞りを絞り込む（絞り値を大きくする）と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。開放側で（絞り値を小さめにして）撮影することをおすすめします。

●シャッター速度が300で点滅している場合は、カメラの制御範囲を越えているため、露出オーバーの写真になります。シャッター速度が点滅しなくなるまで、絞り値を変更してください。

絞り値について

絞り値が小さいとき（絞りを開けたとき）

絞り値が大きいとき（絞りを絞り込んだとき）

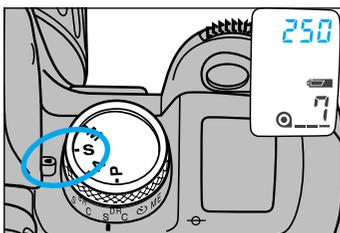
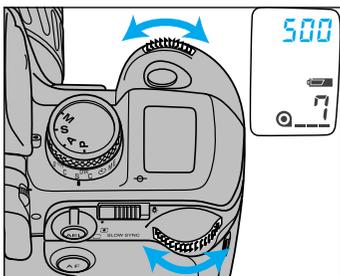
上の写真は、絞りを開けた状態（絞り値は小さい）で撮影しています。ピントが被写体のみに合っていて背景はぼけており、人物がくっきり浮き出てポートレートらしい写真になっています。
下の写真は、絞りを絞り込んだ状態（絞り値は大きい）で撮影しています。被写体だけではなくその前後の広い範囲にピントが合って見え、記念撮影等に適した写真になっています。
このような背景等のぼけ方の描写は、レンズの絞りで調節できます。絞りとは、フィルムに露光される光の量を調節する穴のことで、上の写真のように小さい値（F1.4、2など）ほど、ピントの合って見える範囲が狭くなり（背景がぼけ）、下のように大きい値（F16、22）ほど、ピントの合って見える範囲が広くなり（背景までピントが合い）ます。

●広角レンズほどピントの合って見える範囲が広くなり、望遠レンズほど狭くなります。

●カメラから被写体までの距離が短いほど、ピントの合って見える範囲が狭くなります。

露出モード

S（シャッター速度優先）モード撮影

撮影者が希望のシャッター速度を決めることができます。シャッター速度が変わると動いているものの写り方が変わります。シャッター速度が速いときには動いているものがくっきりと止まって見え、遅いときは動いているものが流れるように写ります。

1. 露出モードダイヤルをSにします。

2. 前または後ダイヤルを回して、希望のシャッター速度を選びます。

● 露出補正ダイヤルが1/2段ステップ（1/2段刻み）になっているときは1/2段ごとに、1/3段ステップのときは1/3段ごとにシャッター速度が変わります（47ページ参照）。

● 絞り値が点滅している場合は、カメラの制御範囲を越えているため、露出オーバーまたは露出アンダーの写真になります。シャッター速度が点滅しなくなるまで、シャッター速度を変更してください。
● 表示部の60、125といった数字は、1/60秒、1/125秒を表わします。2 ″、4 ″など「 ″」の文字が出ている場合は、2秒、4秒を表わします。
● 「buLb」はMモードで撮影してください（98ページ参照）。

Sモードフラッシュ撮影

内蔵フラッシュを上げて（またはプログラムフラッシュをONにして）撮影します。

● 撮影方法は、フラッシュなしの場合と同じです。
● 1/300秒より速いシャッター速度は選べません。別売りのプログラムフラッシュ5400HSを使えば、これより速いシャッター速度を選ぶことができます（67ページ参照）。
● シャッター速度の変更により絞りが絞り込まれる（絞り値が大きくなる）と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。絞りが開放側になるようにして（絞り値が小さめになるようにして）撮影することをおすすめします。

シャッター速度について

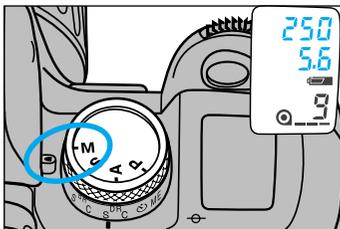
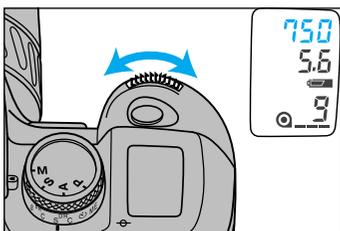
シャッター速度が速いとき

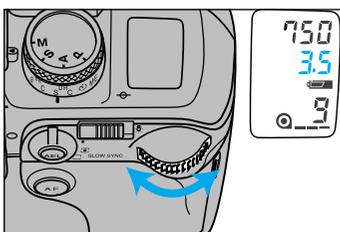
シャッター速度が遅いとき

上の写真は、速いシャッター速度で撮影しています。自転車の動きがくっきり止まって写っています。
下の写真は、遅いシャッター速度で撮影しています。自転車の動きがよく表現されています。
このように動いているものの描写は、カメラのシャッター速度で調節できます。シャッター速度とは、光がフィルムに当たっている時間のことで、上のようにシャッター速度が速い（1/500秒、1/1000秒など）ほど動くものが止まって写り、下のように遅い（1/15秒、1/30秒）ほど流れるように写ります。

● 下の写真は流し撮りと言って、カメラを走っている自転車に合わせて動かしたものです。この場面を流し撮りでなく普通に撮ると、背景は流れずに自転車が流れて写ります。

M（マニュアル）モード撮影

Aモード、Sモードで説明した絞り値とシャッター速度の両方を、自由に選ぶことができます。露出計を使って撮影するときなどに便利です。

1.露出モードダイヤルをMにします。

2.前ダイヤルを回して、希望のシャッター速度を選びます。

- 露出補正ダイヤルが1/2段ステップ（1/2段刻み）になっているときは1/2段ごとに、1/3段ステップになっているときは1/3段ごとにシャッター速度が変わります。

3.後ダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。

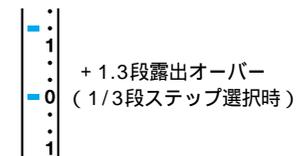
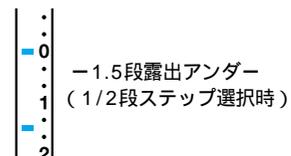
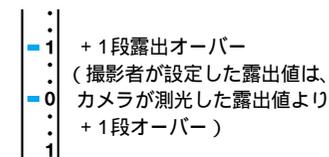
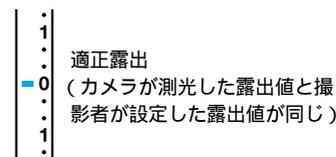
- 露出補正ダイヤルが1/2段ステップになっているときは1/2段ごとに、1/3段ステップになっているときは1/3段ごとに絞り値が変わります。

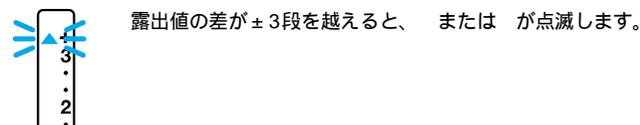
Mモードフラッシュ撮影

内蔵フラッシュを上げて（またはプログラムフラッシュをONにして）撮影します。

- 撮影方法は、フラッシュなしの場合と同じです。
- 1/300秒より速いシャッター速度は選べません。別売りのプログラムフラッシュ5400HSを使えば、これより速いシャッター速度を選ぶことができます（67ページ参照）。
- 絞りを絞り込む（絞り値を大きくする）と、フラッシュ光が遠くまで届かなくなります。開放側で（絞り値を小さめにして）撮影することをおすすめします。

測光インジケーター

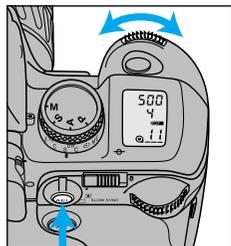
Mモードでは、ファインダー内右側の測光インジケーターに、カメラが測光した露出値を基準値（0）として、撮影者が選んだシャッター速度と絞り値による露出値が表示されます（メータードマニュアル）。

- 露出補正ダイヤル（46ページ参照）が1/2段ステップになっていれば、測光インジケーターの表示も1/2段ごとになります。露出補正ダイヤルが1/3段ステップであれば、測光インジケーターも1/3段ごとになります。

- 露出値の差が±3段を越えると、▲または▼が点滅します。

- 画面全体が黒っぽい（または白っぽい）場合だと、カメラが測光した値と同じにしても適正露出にならないことがあります（次ページ参照）。

次ページへ続く

露出モード

マニュアルシフト

Mモードで露出を固定したまま、シャッター速度と絞り値の組み合わせを変えることができます。

1. シャッター速度と絞り値を選びます。

2. AEロックボタンを押しながら前ダイヤルを回し、希望のシャッター速度と絞り値の組み合わせを選びます。

● AEロックボタンから指を離してもマニュアルシフトができるように（押し続けなくてもいいように）、カメラの設定を変えることもできます（81、89ページ参照）。

● 1/3段ステップ選択時（47ページ参照）に、1/3段系列から外れるレンズの開放絞り値またはシャッター速度1/12000秒を選択すると、露出値がずれることがあります。

反射光式と入射光式について

カメラの光量測定の方法は反射光式です。これは、光源に照らされた被写体から反射してくる光の量（輝度）をカメラが測定し、その被写体がフィルム上で中庸な濃度（グレー18%）に写るように露出値を調整する方法です。したがって、反射率の高い白っぽい被写体でも、反射率の低い黒っぽい被写体でも、フィルム上では同じようなグレーに写ってしまいます。
画面全体が白っぽい（または黒っぽい）被写体を撮影する際には、意図的に露出補正（46ページ参照）をかける必要があります。Mモードの場合は、カメラの測光値よりも多少オーバー（アンダー）気味にして撮影します。

● 反射してくる光の量を測定する反射光式に対して、被写体を照明している光の量（照度）を測定する入射光式もあります。露出計を使うと、このような測定方法が可能です。入射光式だと露出が被写体の反射率に影響されませんので、白いもの・黒いものも、見た通りに再現することができます。露出計を使うときは、カメラをMモードにしてお使いください。

● このカメラでは、高輝度側の露出制限値を設けています。すなわち、雪山等非常に明るいものを撮影する際には、露出オーバー側にしなくても、白さがそのまま再現されます（14分割ハニカムパターン測光時のみ）。

反射光式にて
補正せずに撮影

反射光式にて
オーバー側に
補正して撮影

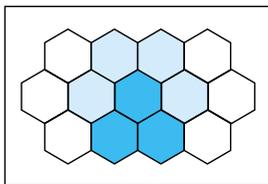
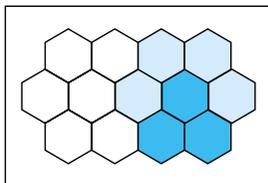
測光・露出

測光方式と、露出補正など露出関係全般について説明しています。

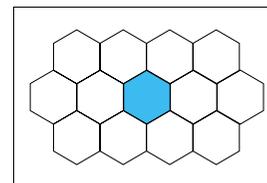
測光方式

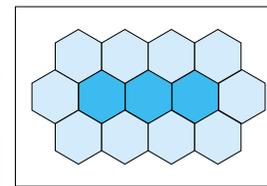
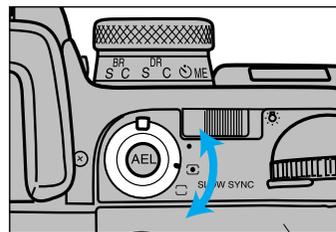
カメラは、被写体の明るさを測って（測光して）露出を決定します。測光の方式が異なると、得られる露出も変わってきます。このカメラは３つの測光方式を備えており、撮影目的や光線の状態によって使い分けることができます。

14分割ハニカムパターン測光

画面全体を14分割して測光します。画面内には、13個のハニカム（ハチの巣）形状の測光素子と、その周囲との合計14個の測光素子が配置されています。これらの素子はオートフォーカスと連動しているので、画面内のどこに被写体があってもカメラがその位置と明るさを的確に判断し、露出を決定します。人の目で見た感じにいちばん近く撮れる測光方式で、逆光撮影を含む一般撮影に適しています。

14分割ハニカムパターン測光
（被写体が中央にあるとき）

14分割ハニカムパターン測光
（被写体が右寄りにあるとき）

スポット測光

画面の中央の1個の素子（スポット測光サークルの部分）のみで露出を決定します。コントラスト（明暗差）の大きい被写体や、画面のある特定の部分だけを測光するのに適しています。測光したい部分が画面中央にないときは、AEロック撮影（48ページ）を行ってください。

中央重点的平均測光

画面の中央部を重点的に、画面全体の明るさを平均的に測光します。逆光時や、被写体が画面中央にない場合などは、露出補正（46ページ参照）が必要になります。

測光方式の選び方

測光モード選択レバーを、希望の測光方式の位置にします。

測光・露出

露出補正

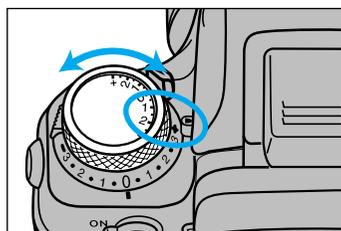
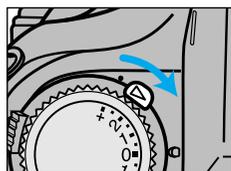
露出アンダー

適正露出

露出オーバー

画面全体が白っぽいまたは黒っぽいものを撮影する、中央重点的平均測光で逆光の被写体を撮るなど、意図的に露出オーバーまたはアンダーの写真を撮影したいときは、露出補正をお使いください。

● ネガフィルムではプリント時に補正されるため、効果が出にくくなります。

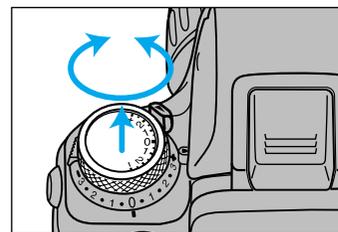
露出補正のしかた

露出補正ダイヤルを、希望の補正量の位置まで回します。

露出補正ダイヤルロックレバーを矢印側（赤色側）にすると、露出補正ダイヤルがロックされます。誤って回したくないときにお使いください。白色側に戻すと回すことができます。

● 露出補正が1/2段ステップになっているときは±3段まで、1/3段ステップになっているときは±2段までの範囲で露出補正ができます。

● 後（または前）ダイヤルを回すだけですぐに露出補正ができるように、カメラの設定を変えることもできます。この場合、1/3段ステップでも±3段までの範囲で露出補正ができます（81、94ページ参照）。

● 露出補正ダイヤルを回すと、同時にボディ表示部にも露出補正値が表示できるようにすることもできます（81、95ページ参照）。

露出補正設定段数の切り替え

露出補正の設定段数は、撮影者の好みや被写体に応じて、1/2段ステップ（1/2段刻み）または1/3段ステップ（1/3段刻み）に切り替えることができます。

1. 露出補正ダイヤルを±0の位置まで回します。

2. ダイヤルをつまみ上げながら180°回転させ、反対側の±0の位置で手を離します。

● 0以外の位置でダイヤルを無理に上げないでください。

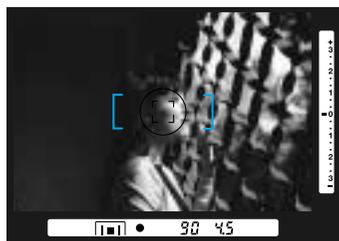
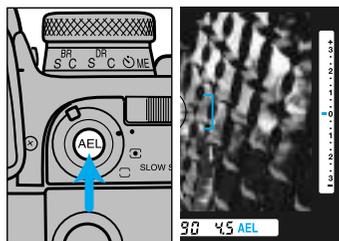
● 露出補正ダイヤルをつまみ上げて回転させた途中の状態で撮影しないでください。正しい露出で撮影されません。

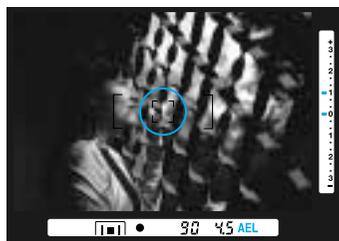
● レンズに記載されている最大／最小絞り値は、1/2段ステップによる値です。1/3段ステップに設定した場合、レンズによっては記載値通りの最大／最小絞り値が表示されないことがありますが、実際には記載されている最大／最小絞り値で制御されています。

測光インジケーター

露出補正を設定すると、ファインダー内右側の測光インジケーターに、設定した露出補正値が表示されます。

AEロック撮影(露出の固定)

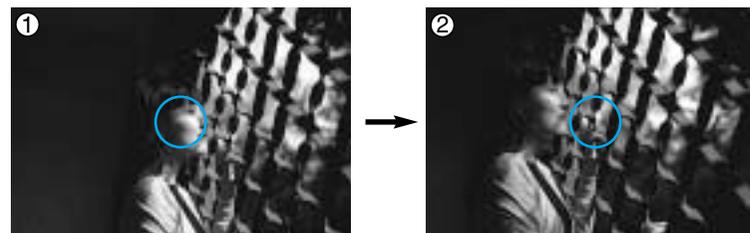
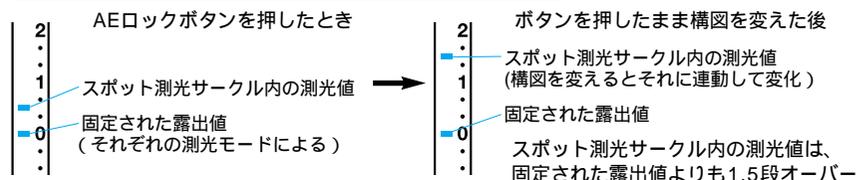
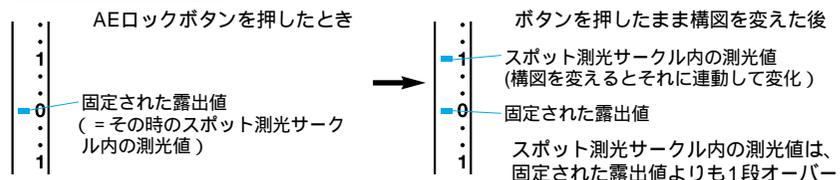
AEロックボタンを押すと、その時の露出値が固定されます。測光したいものとピントを合わせたいものが異なる場合や、露出を一定に保ったまま連続撮影したい場合などに使用します。

1.測光したいものにピントを合わせます。

2.AEロックボタンを押します。

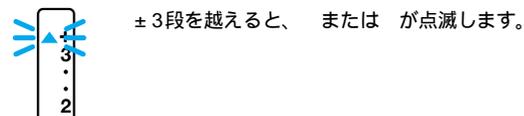
- ファインダー内にAELが点灯し、露出値が固定されたことをお知らせします。
- ファインダー内右側の測光インジケーターについては、右のページをご覧ください。

3.AEロックボタンを押したまま、必要ならば構図を変えます。

4.AEロックボタンを押したまま、被写体にピントを合わせて撮影します。

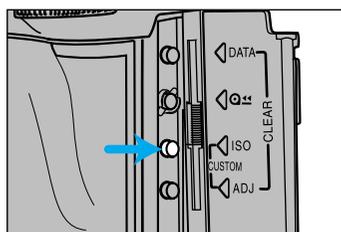
- 撮影後、AEロックボタンから指を離すと、露出の固定は解除されます。撮影後もAEロックボタンを押し続けていると、同じ露出で連続して撮影できます。
- フラッシュが発光するとき(ファインダー内に⚡が点灯しているとき)は、AEロックボタンを押しながら撮影すると、スローシンクロ撮影になります(62ページ参照)
- AEロックボタンから指を離しても露出が固定されたままになるように(押し続けなくてもいいように)、カメラの設定を変えることもできます(81、89ページ参照)。

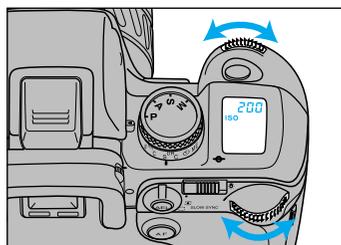
測光インジケーター(P/A/Sモードのみ)

AEロックボタンを押して露出を固定すると、ファインダー内右側の測光インジケーターに、固定された露出値を基準値(0)として、構図を変えた後のスポット測光サークル内の測光値の、基準値との差が表示されます。

14分割ハニカムパターン測光・中央重点的平均測光の場合

スポット測光の場合

- 露出補正ダイヤル(47ページ参照)が1/2段ステップになっていれば、測光インジケーターの表示も1/2段ごとになります。露出補正ダイヤルが1/3段ステップであれば、測光インジケーターも1/3段ごとになります。

- ±3段を越えると、▲または▼が点滅します。

フィルム感度の設定と変更

DXコードの付いていないフィルムをお使いの場合は、以下の要領でパッケージなどに記載されているフィルム感度をカメラに設定してください。また、増感撮影※など、意図的にフィルム感度を変更する場合も以下の要領で行なってください。

1.カメラにフィルムを入れます。

2.グリップドアを開け、フィルム感度設定ボタンを押します。

●現在のフィルム感度がボディ表示部に表示されます。

3.前ダイヤルまたは後ダイヤルを回して、希望のフィルム感度を選びます。

●設定可能なフィルム感度の範囲は、ISO6〜6400です。

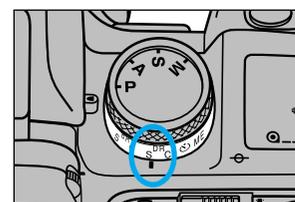
4.シャッターボタンを半押しします。

●撮影中でもフィルム感度設定ボタンを押せば、現在のフィルム感度を確認できます。
●フィルム感度を意図的に変更した場合、その後も同じ感度のフィルムを続けてカメラに入れると、同様の変更が自動的になされるように（変更した感度を記憶し続けるように）、カメラの設定を変えることもできます（81、86ページ参照）。

※増感撮影とは

ISO 100のフィルムをISO 200に変更するなど、フィルム全体の感度を上げることを増感撮影といいます。増感撮影するときは、変更した感度でそのフィルムの全コマを撮影してください（1本のフィルムの途中から増感／減感することはできません）。また撮影後現像に出すときは、増感撮影したことを必ずお店の方にお伝えください。

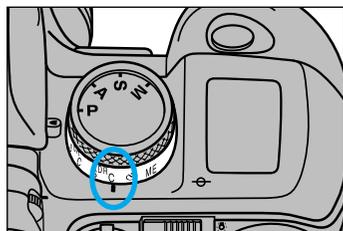
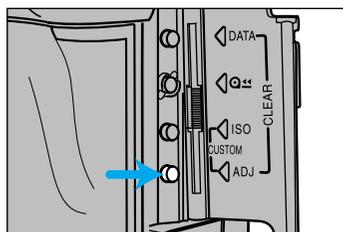
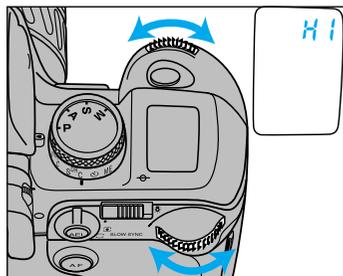
巻き上げ

連続撮影、ブラケット（露出ずらし）撮影、多重露光など、巻き上げモードレバーを使って撮影する機能について説明しています。

巻き上げモードレバーの基本位置は、DR Sです。この位置で通常の１コマ撮影になります。

巻き上げモードレバー上の文字の意味

DR（ドライブ／Drive）
　S（1コマ撮影／Single）
　C（連続撮影／Continuous）
BR（ブラケット／Bracket）
　S（1コマ撮影／Single）
　C（連続撮影／Continuous）
（セルフタイマー）
ME（多重露光／Multiple Exposure）

連続撮影

シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されます。

1.巻き上げモードレバーをDR Cにします。

2.グリップドアを開け、アジャストボタンを押します。

3.前または後ダイヤルを回して、「HI」(高速)または「Lo」(低速)を選びます。

- シャッターボタンを半押しすると、通常の表示に戻ります。

4.シャッターボタンを押し続けて撮影します。

- 高速・低速の設定は、新たに設定し直すまで変わりません。常に高速(または低速)で撮影する場合は、巻き上げモードレバーをDR Cにするだけですぐ連続撮影ができます。

連続撮影の速度について

HI(高速)設定時 (シャッター速度1/250秒以上、新品電池使用)

AFモードS(ワンショット)、マニュアルフォーカス時　5.5コマ/秒

- 撮影データメモリー機能使用時(73ページ)は約5コマ/秒に、撮影データメモリーバックDM-9(別売り)でフィルムコマ間に撮影データの写し込みをしているときは約4.5コマ/秒になります。
- クォーツデータバックQD-9(別売り)使用時は、2コマ目からの日付の写し込みができないことがあります。
- 低温や電池消耗等により電池の性能が低下していると、一時的に連続撮影速度が落ちることがあります。このような場合は早めの電池交換をおすすめします。

AFモードA(自動切り替え)、C(コンティニュアス)時　4.5コマ/秒

Lo(低速)設定時　2コマ/秒

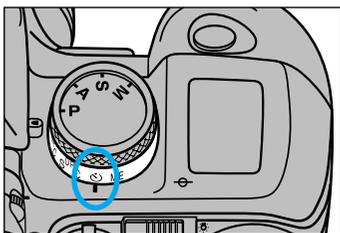
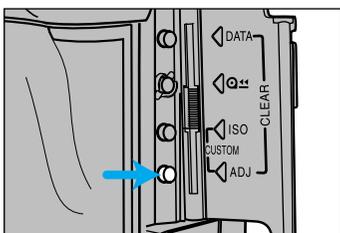
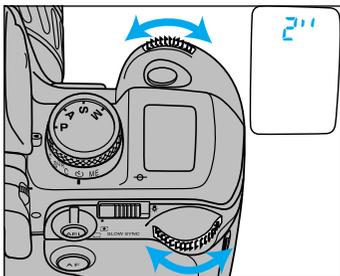
- フラッシュが発光するときは、フラッシュの充電が完了してから撮影されます。
- AFモードをA(自動切り替え)またはC(コンティニュアス)にしている場合、シャッターボタンを押し続けている間でも、被写体までの距離が変わったときは、その度ピントを合わせ直します。ピントが合うまでシャッターは切れませんので、連続撮影の速さを優先したいときは、カメラをレリーズ優先にしてください(81、84ページ参照)。
- AFズームXiレンズ、またはAFパワーズームレンズ使用時は、連続撮影中のズームはできません。

セルフタイマー撮影／簡易ミラーアップ機能

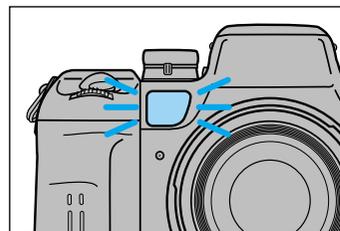
シャッターボタンを押してから10秒後、または2秒後に撮影されます。

10秒セルフタイマー
シャッターボタンを押してから10秒後に撮影されます。撮影者も一緒に写真に入るときに便利です。

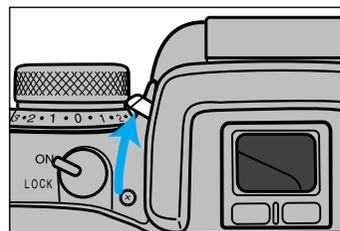
簡易ミラーアップ機能（2秒セルフタイマー）
シャッターボタンを押した直後にミラーアップし、2秒後に撮影されます。撮影する瞬間のミラーアップの衝撃をなくし、よりカメラぶれの少ない写真を撮りたいときに便利です。

1. カメラを三脚などに固定します。

2. 巻き上げモードレバーを⏲にします。

3. グリップドアを開け、アジャストボタンを押します。

4. 前または後ダイヤルを回して、「10"」（10秒セルフタイマー）または「2"」（簡易ミラーアップ機能）を選びます。

- シャッターボタンを半押しすると、通常の表示に戻ります。

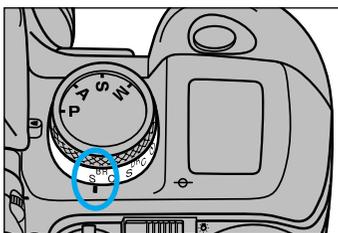
5. 構図を決めます。

6. ピントが合っているのを確認してから、シャッターボタンを押します。

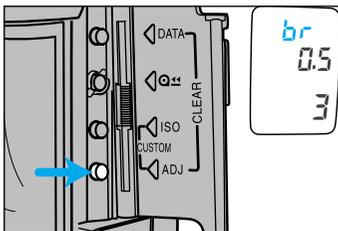
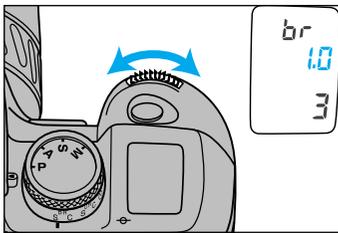
- 10秒セルフタイマー作動中は、カメラ前面のセルフタイマーランプが点滅し、撮影直前には素早い点滅になります。
- 簡易ミラーアップ中は、セルフタイマーランプは作動しません。

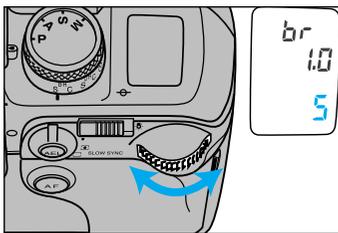
- 作動中の10秒セルフタイマーを止めるには、メインスイッチをLOCKにするか、巻き上げモードレバーを⏲以外に回してください。簡易ミラーアップ機能を途中で止めることはできません。

- カメラの後ろに明るい光源や反射物などがあり、かつファインダーをのぞかずにシャッターボタンを押す場合は、ファインダーから光が入って露出に影響するのを防ぐため、アイピースシャッターレバーを上げてアイピースシャッターを閉じてください。

- 10秒、2秒の設定は、新たに設定し直すまで変わりません。常に10秒（または2秒）で撮影する場合は、巻き上げモードレバーを⏲にするだけで、すぐセルフタイマー撮影ができます。

ブラケット（露出ずらし）撮影

リバーサルフィルムを使うときなど厳密な露出を要求される撮影では、適正露出での撮影以外に、少し露出をずらして何枚か撮影することがあります。このカメラでは、それらの撮影が自動でできる機能を装備しています。

1.巻き上げモードレバーをBR SまたはBR Cにします。

● Sだと1コマ撮影になり、１コマずつシャッターボタンを押して撮影します。Cだと連続撮影になり、シャッターボタンを押し続けると連続して撮影されます。

2.グリップドアを開け、アジャストボタンを押します。

3.前ダイヤルを回して、ブラケット段数を選びます。

● 0.3段、0.5段、0.7段、1.0段の中から選択できます。

4.後ダイヤルを回して、撮影枚数を選びます。

● 3、5、7枚の中から選択できます。
● シャッターボタンを半押しすると、通常の表示に戻ります。BR S（1コマ撮影）の場合は、「br 1」が表示されます。

5.シャッターボタンを押し込んで撮影します。

● BR S（1コマ撮影）の場合は、１コマずつシャッターボタンを押します。
● BR C（連続撮影）の場合は、設定した枚数の撮影が終わるまで、シャッターボタンから指を離さないでください。

撮影順序

● 撮影の順序は以下の通りです。（例：ブラケット段数0.5段、撮影枚数5枚の場合）
±0段 → －0.5段 → ＋0.5段 → －1.0段 → +1.0段
● －から＋へ順に撮影する（上記の場合、－1.0段 → －0.5段 → ±0段 → ＋0.5段 → +1.0段）こともできます（81、89ページ参照）。

1コマ撮影（BR S）の場合

● 1コマ目の撮影が終わると、表示部に「br 2」が現れます。一連のブラケット撮影が終わるまで、br 3、br 4･･･と増えて行きます。
● ブラケット撮影の途中でフィルムを入れ換えても、続きからブラケット撮影ができます。
● ブラケット撮影を途中で中断する場合は、巻き上げモードレバーを動かすか、メインスイッチをLOCKにしてください。
● 1コマ撮影のブラケットは、シャッター速度が長くなる夜景のブラケット撮影時や、風で揺れる花を風が止んだ瞬間に撮影するなど、タイミングを狙って撮影するときに便利です。

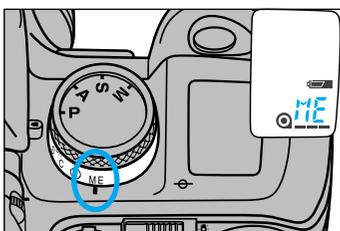
連続撮影（BR C）の場合

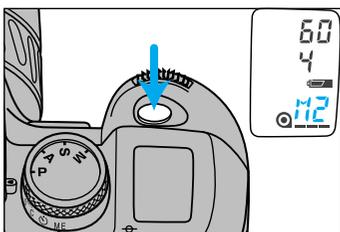
● 撮影の途中で指を離すと、ブラケット撮影はキャンセルされます。もう一度シャッターボタンを押すと、次のブラケット撮影が新たに1枚目から始まります。
● フィルム終端になるとブラケット撮影は停止します。フィルムを入れ換えると、次のブラケット撮影は新たに1枚目から始まります。

その他

● Pモードでは、シャッター速度と絞り値の両方が変化してブラケット撮影を行ないます。
Aモードではシャッター速度が変化します。
Sモードでは絞り値が変化します。
Mモードではシャッター速度が変化しますが、AEロックボタンを押しながら撮影すると絞り値が変化します。
● フラッシュを使ってのブラケット撮影については、64ページをご覧ください。
● 基準となる露出値（±0）は、1枚目を撮影するときに固定されます。
● 露出補正（46ページ参照）をかけると、基準となる露出値もそれに応じて変わります。
● ネガフィルムではプリント時に補正されるため、効果が出にくくなります。

多重露光

1コマのフィルムに続けて何度も露光することができます。

1. 巻き上げモードレバーをMEにします。

● フィルムカウンターは「ME」になります。
● この状態で撮影すると、フィルムは巻き上げられません。

2. シャッターボタンを押して撮影します。

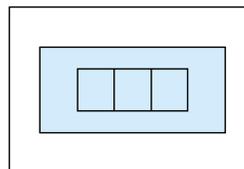
● フィルムカウンターは「M2」になります。
● 撮影するごとに、フィルムカウンターは、M3、M4･･･と増えて行きます。M9以降は増えませんが、押した回数だけ多重露光撮影はできます。

3. 多重露光撮影が終わると、巻き上げモードレバーをME以外にします。

● フィルムが巻き上げられます。

● 多重露光撮影では、背景を暗めにすることをおすすめします。また被写体の状況によっては、あらかじめアンダー側に露出補正しておく必要があります。
● ネガフィルムで多重露光撮影した場合は、その旨を店頭で申し出ないとプリントされないことがあります。

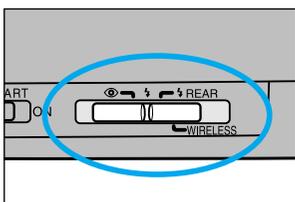
フラッシュ撮影

このカメラには、24mmレンズの画角をカバーするガイドナンバー12（ISO100）の内蔵フラッシュが搭載されています。ここでは、内蔵フラッシュだけでなく、別売りのプログラムフラッシュも含めた、フラッシュ撮影全般について説明しています。

フラッシュ調光には、4分割TTLダイレクト調光を採用しました。この調光方式は14分割ハニカムパターン測光と同じく、オートフォーカスと連動しているので、カメラが被写体の位置を的確に判断し、どのエリアで調光を行なうかを決定します。

● 4分割調光以外の調光方式を選ぶこともできます（81、95ページ参照）。
● 簡易ミラーアップ機能（2秒セルフタイマー）、後幕シンクロ撮影時およびプレビューボタンを押しながら撮影する場合は、4分割でなく平均的な調光になります。

4分割TTL調光

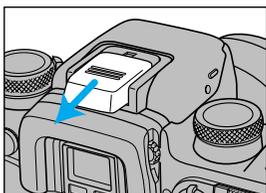
従来の平均的な調光

フラッシュモード選択スイッチ

フラッシュモード選択スイッチの機能は以下の通りです。

●（　）内は参照ページです。

	内蔵フラッシュ	プログラムフラッシュ
👁	赤目軽減フラッシュ（61）	通常発光
ϟ	通常発光（22～23）	通常発光
ϟREAR	後幕シンクロ（63）	後幕シンクロ（63）
WIRELESS	ワイヤレスフラッシュ（68～72）*	通常発光**

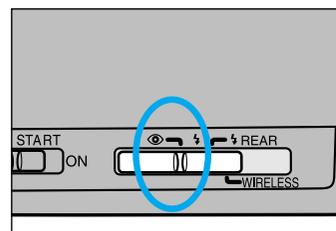
*WIRELESS位置のまま内蔵フラッシュでワイヤレス以外の撮影を行なうと、適正露出が得られません。
**カメラに直接フラッシュを取り付けた場合、ハイスピードシンクロ撮影はできません。

プログラムフラッシュ使用時には

● フラッシュを取り付ける場合は、アクセサリーシューキャップを外してください。
● フラッシュ表示は内蔵フラッシュと同じです。
● フラッシュ光の届く範囲については、フラッシュの使用説明書をご覧ください。5400HS、5400xiをお使いの場合は、フラッシュ背面に表示される距離内で撮影してください。

プログラムフラッシュ5400HS装着時には、撮影の直前にフラッシュが一度光り（プリ発光）、その反射光を14分割ハニカムパターン素子で測光して、調光演算に反映させます。これにより、被写体が画面内のどの位置にあっても、また極端に反射率が高い（または低い）被写体でも、正確に調光を行い、常に被写体を適正露出にします。

● 5400HSのハイスピードシンクロ機能OFF時（フラッシュ背面のHSSが消えている状態、67ページ）、後幕シンクロ・ワイヤレスフラッシュ・バウンス撮影時、簡易ミラーアップ機能選択時、およびオフカメラケーブルを使っての多灯撮影時には、プリ発光は行われません。
● フラッシュメーターやカラーメーター使用時にプリ発光が行われると、正確な測定ができません。また、ソフトライティングセットⅡや露出倍数のかかるフィルター（ND等）使用時にプリ発光が行われると、適正露出が得られなくなります。5400HSを装着してこれらを使った撮影をする際には、フラッシュのHSSボタンを押してHSSを消してください。これでプリ発光が行われなくなります。

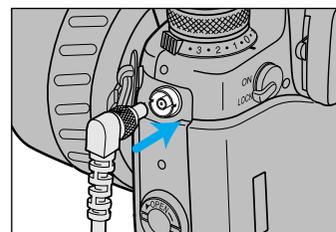
赤目軽減フラッシュ撮影

暗いところで人物を内蔵フラッシュで撮影すると、フラッシュの光が目の中で反射して、目が赤く写ることがあります。撮影の直前に小光量のフラッシュを何回か発光させると、この現象を和らげることができます。

1. フラッシュモード選択スイッチを👁の位置にします。

2. シャッターボタンを押して撮影します。

● フラッシュの本発光の前に数回、小光量の発光が行われます。人物撮影のときは、写される人にその旨を伝えておくことをおすすめします。

● プログラムフラッシュ（別売り）使用時には、赤目軽減フラッシュ撮影はできません。
● 簡易ミラーアップ機能（54ページ参照）設定時には、赤目軽減の効果を得ることはできません。

シンクロターミナル

このカメラにはシンクロターミナルが付いているので、シンクロコード付きフラッシュを使った撮影が可能です。シンクロターミナルを使ってフラッシュ撮影をする場合には、以下の設定にしてください。

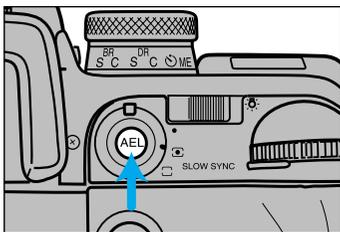
● 露出モードはMモードにする
● シャッター速度は1/300秒以下（低速側）にする

● フラッシュは、常にフル発光になります。よって、フラッシュ調光補正（66ページ）はできません。ブラケット撮影は、AEロックボタンを押しながら撮影（絞り値が変化する、57ページ参照）すれば可能です。
● フラッシュのシンクロ端子の極性が逆のタイプでも使用可能です。
● トリガー電圧を極端に低くしてあるフラッシュなど、フラッシュによっては発光しないことがあります。この場合は、弊社フォトサポートセンターにご相談ください。
● シンクロコードをシンクロターミナルに接続するときは、シンクロコードにつながれたフラッシュの電源をOFFにしてください。ONのままだと、コードを接続した瞬間にフラッシュが発光することがあります。

スローシンクロ撮影（夜景を背景にしたフラッシュ撮影）

スローシンクロ撮影

通常のフラッシュ撮影

夜景を背景にして記念撮影する場合、通常のフラッシュ撮影では手前の人物はきれいに写し出されますが、フラッシュの届かない背景は黒くつぶれてしまいます。このような場合、スローシンクロ撮影（シャッター速度の遅いフラッシュ撮影）をすると、人物も背景もきれいに撮ることができます。

ファインダー内にが点灯しているとき（フラッシュが発光するとき）に、AEロックボタンを押しながら撮影します。

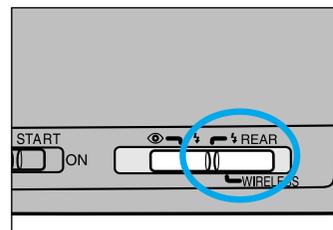
● ファインダー内にAELが点灯します。

● シャッター速度が遅くなりますので、三脚の使用をおすすめします。
● フラッシュが発光しないときにAEロックボタンを押しながら撮影すると、露出が固定されます（AEロック撮影、48ページ参照）。
● Sモード、Mモードでは、AEロックボタンによるスローシンクロ撮影はできません。
● AEロックボタンから指を離してもスローシンクロ撮影のままになるように（押し続けなくてもいいように）、カメラの設定を変えることもできます（81、89ページ参照）。

後幕シンクロ撮影

後幕シンクロ撮影

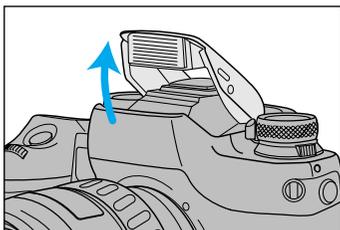
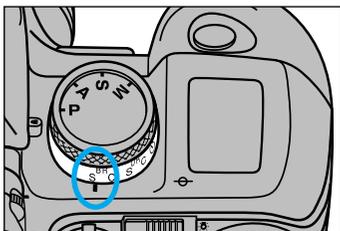
通常のフラッシュ撮影

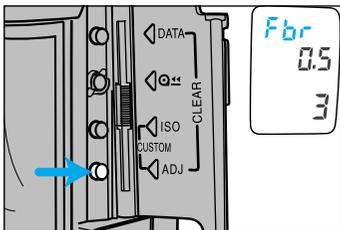
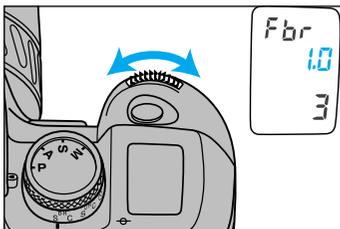
通常フラッシュは、シャッターの第一幕（先幕）の走行直後に発光します。フラッシュ発光後に定常光による露光が行われるため、長秒時のフラッシュ撮影では、光の流れなどが不自然に写ることがあります。
後幕シンクロでは、シャッターの後幕（第二幕）走行直前にフラッシュを発光させます。動いている被写体を低速シャッター速度でフラッシュ撮影するときに用いると、光の流れや被写体の軌跡をより自然に描写できます。

1. フラッシュモード選択スイッチをREARの位置にします。

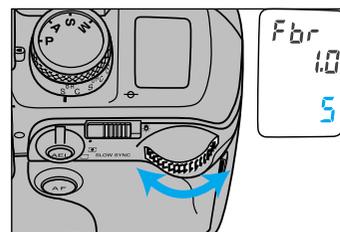
2. シャッターボタンを押して撮影します。

● 後幕シンクロ撮影は、低速シャッターで動きのある被写体を撮影する場合に効果を発揮します。シャッター速度が1/60秒より高速の場合、効果がほとんど得られませんので、後幕シンクロに設定していても通常のフラッシュ制御になります。
● 赤目軽減フラッシュ撮影、ワイヤレスフラッシュ撮影との併用はできません。

フラッシュブラケット撮影

フラッシュを使わないブラケット(露出ずらし)撮影では、シャッター速度と絞り値を変えて露出ずらしを行ないますが、フラッシュブラケット撮影では、フラッシュの光量を変化させて露出ずらしを行ないます。フラッシュ光の届かない背景の露出はそのままで、フラッシュ光の届く主被写体だけのブラケット撮影ができます。

1.内蔵フラッシュを上げます(またはプログラムフラッシュの電源をONにします)。

2.巻き上げモードレバーをBR SまたはBR Cにします。

- どちらを選んでも、1コマずつシャッターボタンを押して撮影します。連続撮影にはできません。

3.グリップドアを開け、アジャストボタンを押します。

4.前ダイヤルを回して、ブラケット段数を選びます。

- 0.3段、0.5段、0.7段、1.0段の中から選択できます。

5.後ダイヤルを回して、撮影枚数を選びます。

- 3、5、7枚の中から選択できます。
- シャッターボタンを半押しすると、通常の表示に戻り、表示部に「Fbr1」が表示されます。

6.シャッターボタンを押し込んで撮影します。

- 1コマ目の撮影が終わると、表示部に「Fbr2」が現れます。一連のフラッシュブラケット撮影が終わるまで、Fbr3、Fbr4･･･と増えて行きます。1コマずつシャッターボタンを押して撮影してください。

撮影順序

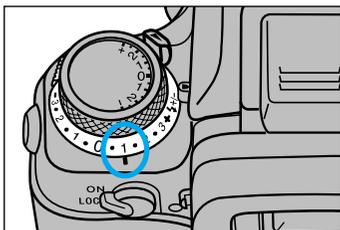
- 撮影の順序は以下の通りです。
  (例:フラッシュブラケット段数0.5段、撮影枚数5枚の場合)
  ±0段 → −0.5段 → ＋0.5段 → −1.0段 → +1.0段
- −から＋へ順に撮影する(上記の場合、−1.0段 → −0.5段 → ±0段 → ＋0.5段 → +1.0段)こともできます(81、89ページ参照)。

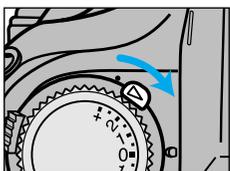
その他

- フラッシュブラケット撮影の途中でフィルムを入れ換えても、続きから撮影ができます。
- フラッシュブラケット撮影を途中で中断する場合は、巻き上げモードレバーを動かすか、メインスイッチをLOCKにしてください。
- フラッシュを使わないブラケット撮影については、56ページをご覧ください。
- 露出補正(46ページ)またはフラッシュ調光補正(66ページ)をかけると、基準となる露出値もそれに応じて変わります。
- 一連のブラケット撮影が終わる前に内蔵フラッシュを下げると、ブラケット撮影は解除されます。プログラムフラッシュの場合はOFFにすると、フラッシュなしのブラケット撮影に切り替わります。
- ネガフィルムではプリント時に補正されるため、効果が出にくくなります。

フラッシュ調光補正

フラッシュ撮影の際、フラッシュの光量だけで露出を補正することができます（フラッシュ調光補正）。フラッシュ光の届かない背景の露出はそのままで、フラッシュ光が届く主被写体だけの露出を変えることができます。

● ネガフィルムではプリント時に補正されるため、効果が出にくくなります。

フラッシュ調光補正ダイヤルを、希望の補正量の位置まで回します。

● 調光補正は1/2段ステップ、補正範囲は±3段までです。

露出補正ダイヤルロックレバーを矢印側（赤色側）にすると、露出補正ダイヤルがロックされ、フラッシュ調光補正ダイヤルが回しやすくなります。

● TTL調光ではないマニュアルフラッシュ撮影の場合は、調光補正値に関係なく、設定された光量でフル発光します。
● フラッシュ光も定常光も含めた画面全体の露出レベルを補正するときは、露出補正を行なってください（46ページ参照）。このときフラッシュ調光補正も設定していると、フラッシュ光に対しては二重に補正がかかることになります。

ハイスピードシンクロ（HSS）撮影

ハイスピードシンクロ（HSS）撮影をするには、別売のプログラムフラッシュ5400HSが必要です。

ハイスピードシンクロ撮影

通常のフラッシュ撮影

別売のプログラムフラッシュ5400HSをこのカメラに取り付けて、5400HSをスタンダードモード（HSSが表示されている状態）にします。すると、フラッシュ同調シャッター速度の制限がなくなり、カメラの持つシャッター速度全域（30秒〜1/12000秒）でフラッシュ撮影ができるようになります。その結果、絞り値の選択幅が広がりますので、フラッシュを使った撮影でも絞りを開けて背景をぼかし、人物が浮き上がって見えるポートレートらしい写真を撮ることができます。
またAモードやMモードで開放側の絞り値でフラッシュ撮影をするとき、背景が非常に明るくて通常は露出オーバーとなるようなシーンでも、高速シャッターを使って適正露出にすることができます。

● ハイスピードシンクロ撮影となるときは、ファインダー内に*H*が点灯します。
● ハイスピードシンクロ撮影となるときは、通常のフラッシュ撮影よりも調光距離の範囲が短くなります。撮影前に、被写体がプログラムフラッシュ5400HSの表示部に表示されている距離の範囲内にあるかどうか確認してください。

● 簡易ミラーアップ機能選択時には、ハイスピードシンクロ撮影はできません。
● ハイスピードシンクロ撮影となるときは、プレビュー（絞り込み）ボタンを押している間はシャッターが切れません。
● 蛍光灯下で撮影するときは適正露出が得られないことがありますので、1/300秒より高速のシャッター速度にしないでください。
● ハイスピードシンクロ撮影時（フラッシュ背面のHSSが点灯しているとき）には、撮影の直前にフラッシュが一度発光するため、フラッシュメーター、カラーメーターの使用はできません。

ワイヤレスフラッシュ撮影

ワイヤレスフラッシュ撮影には、別売りのプログラムフラッシュ5400HS、5400xi、3500xiのいずれかが必要です。

フラッシュをカメラに取り付けて撮影

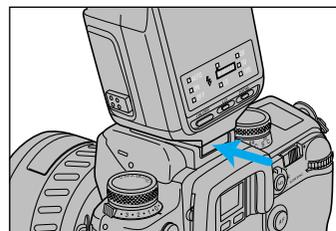
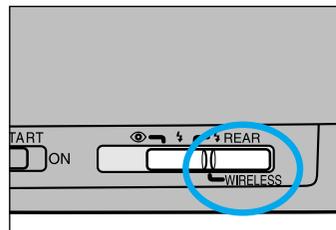
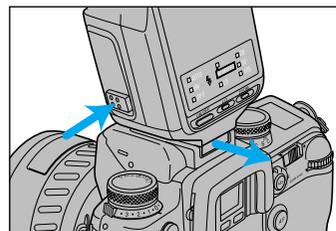
ワイヤレスフラッシュ撮影

ワイヤレスフラッシュ撮影
（光量比制御）

フラッシュをカメラの上に取り付けて撮影すると、写真①のように平面的な写真になることがあります。このようなとき、フラッシュをカメラから取り外して撮影すると、フラッシュの位置を工夫することで、陰影を付けて立体感を出すことができます（写真②）。
写真③は、カメラの内蔵フラッシュとカメラから離したプログラムフラッシュの光量を、1:2の割合で発光させたものです。明暗差が柔らかくなり、自然な陰影を付けることができます。

一眼レフカメラでこのような撮影をするときには、カメラとフラッシュをコードで接続しなければならないことが多いのですが、このカメラでは、コードがなくてもこのような撮影ができます。これは、カメラとフラッシュの信号の伝達をコードではなく、フラッシュの光を利用して行なうことができるからです。この撮影をワイヤレス（＝コードのない）フラッシュ撮影といいます。もちろん露出はカメラが自動で適正露出になるよう制御します。

- フラッシュメーター、カラーメーターは使用できません。
- シャッター速度は、1/60秒またはそれ以下になります。

ワイヤレスフラッシュ設定方法

1. フラッシュをカメラに取り付け、フラッシュとカメラの電源をONにします。

2. フラッシュモード選択スイッチをWIRELESSの位置にします。
- フラッシュがワイヤレス設定になります。

3. フラッシュをカメラから取り外し、カメラの内蔵フラッシュを上げます。

- 上記の方法では、カメラとフラッシュの両方をワイヤレス設定にするだけでなく、フラッシュの電池室内のチャンネル情報も同時にカメラ側に伝えます。フラッシュのチャンネル設定を変えなければ、次からは以下の方法で、カメラとフラッシュを別々にワイヤレスに設定することも可能です。

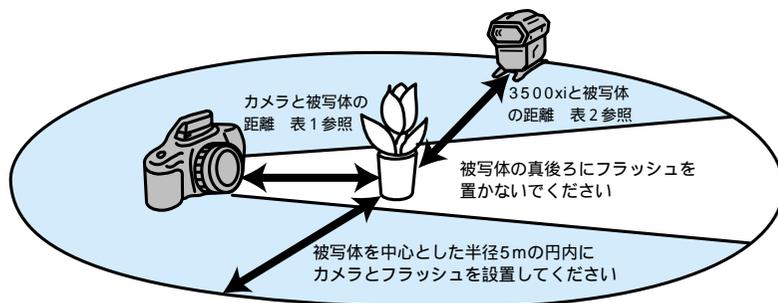
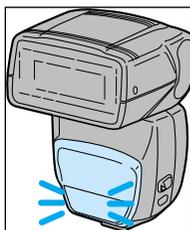
カメラの設定：フラッシュモード選択スイッチをWIRELESSの位置にする。
フラッシュの設定： **5400HS：** 発光モード切り替えボタン（MODE）を押す。
5400xi： 通常メニューでWIRELESSボタンを押す。
3500xi： いったんOFFにした後、ワイヤレスフラッシュランプが点灯するまで発光ON/OFF切り替えボタンを押し続ける。

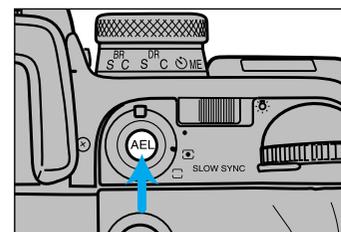
次ページへ続く

ワイヤレスフラッシュ撮影方法

1. カメラとフラッシュの位置を決めます。

このカメラは内蔵フラッシュの発光を信号として5400HSや5400xi、3500xiを発光させます。信号が正しく受け取れるよう以下のことに気を付けてください。

- 室内など暗いところで撮影してください。
- 3500xiご使用時は、下図の青色の部分にフラッシュを設置してください。その他のフラッシュを使われる場合は、各フラッシュの使用説明書をお読みください。

	カメラと被写体との距離（表1）		3500xiと被写体との距離（表2）	
フィルム感度 絞り値	ISO100	ISO400	ISO100	ISO400
2.8	1.4 - 5 m	2.8 - 5 m	1 - 5 m	2 - 5 m
4	1 - 5 m	2 - 5 m	0.7 - 4.5 m	1.4 - 5 m
5.6	1 - 5 m	1.4 - 5 m	0.5 - 3.2 m	1 - 5 m

2. カメラの内蔵フラッシュとプログラムフラッシュの充電完了を確認します。

- 内蔵フラッシュは、ファインダー内の⚡が点灯すると充電完了です。
- プログラムフラッシュは、背面の⚡が点灯または点滅し、前面のAF補助光が点滅すると充電完了です。

3. カメラのAEロックボタンを押して、カメラから離したフラッシュが発光することを確認します（テスト発光）。

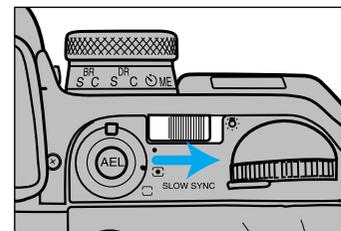
4. もう一度両方のフラッシュの充電完了を確認し、シャッターボタンを押し込んで撮影します。

カスタム設定でAEロックボタンの操作方法を変更しているとき

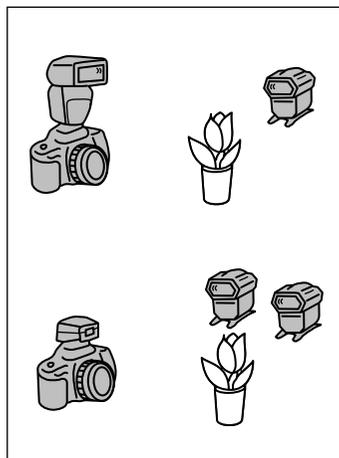
カスタム設定で、AEロックボタンから指を離してもその機能が残るよう設定を変更しているとき（89ページ参照）は、元の設定（設定番号1）に戻すことをおすすめします。
設定番号2の状態では、ファインダー内にAELが点灯している間はスローシンクロ撮影になります。また、テスト発光のたびに、スローシンクロ撮影とそうでない状態とが切り替わります。

光量比制御撮影

（プログラムフラッシュと内蔵フラッシュを2:1の割合で発光させる）

プログラムフラッシュを2、カメラの内蔵フラッシュを1の割合で発光させることができます。逆はできません。

通常のワイヤレスフラッシュ撮影と同様にカメラとフラッシュを設定し、カメラのボディ表示部照明スイッチを押しながらシャッターボタンを押して撮影します。

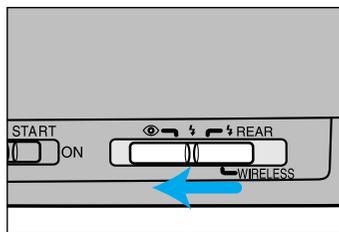
次ページへ続く

その他のワイヤレスフラッシュ撮影

内蔵フラッシュの代わりに、以下の撮影もできます。詳しくは、フラッシュの使用説明書をご覧ください。

①プログラムフラッシュ5400HSまたは5400xiをカメラに取り付けるワイヤレスフラッシュ撮影（2台のプログラムフラッシュが必要）

②別売りのワイヤレスフラッシュリモコンをカメラに取り付けるワイヤレスフラッシュ撮影（カメラから離した2台以上のフラッシュを発光させることができる）

● 上記①および②の場合は、プレビュー（絞り込み）ボタンを押しているとフラッシュは発光しません。

ワイヤレスフラッシュの解除

1. フラッシュをカメラに取り付け、フラッシュとカメラの電源をONにします。

2. フラッシュモード選択スイッチをWIRELESS以外の位置にします。

● 上記の方法は、カメラとフラッシュのワイヤレス設定を同時に解除するやり方です。カメラとフラッシュを別々に（フラッシュをカメラに取り付けずに）解除することもできます。
カメラの設定：フラッシュモード選択スイッチをWIRELESS以外の位置にする。
フラッシュの設定：　5400HS： 発光モード切り替えボタン（MODE）を押す。
5400xi： 通常メニューでWIRELESSボタンを押す。
3500xi： いったんOFFにした後、ワイヤレスフラッシュランプが消えるまで発光ON/OFF切り替えボタンを押し続ける。

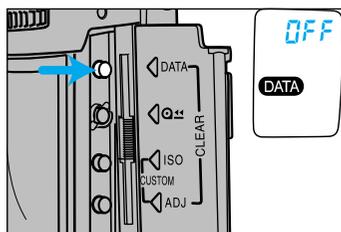
撮影データメモリー

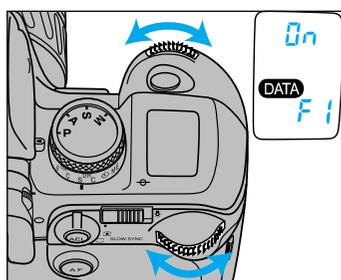
撮影データメモリー機能を設定すると、以下の7項目の撮影データが自動的にカメラに記録されます。記録されたデータは、カメラのボディ表示部に表示させて確認することができます。フィルム7本分のデータを記録することができます。

シャッター速度
絞り値
レンズの焦点距離
露出補正値（ブラケット値を含む）
フラッシュ調光補正値（フラッシュブラケット値を含む）
露出モード
測光モード

別売りの専用アクセサリー、撮影データメモリーバックDM-9を装着すれば、付属のカード（スマートメディア）にフィルム400本分のデータを記録することができます。さらに、フィルムのコマ間にデータを書き込んだり、データをパソコンで出力したりすることも可能です。

● DM-9を装着した状態でカメラ本体の撮影データメモリー機能を使う場合は、DM-9のスマートメディアを取り出してお使いください。

撮影データの記録

1.グリップドアを開け、撮影データメモリー(DATA)ボタンを押します。

●ボディ表示部に、現在の設定(初期設定はOFF)が表示されます。

2.前または後ダイヤルを回して、「On」を表示させます。

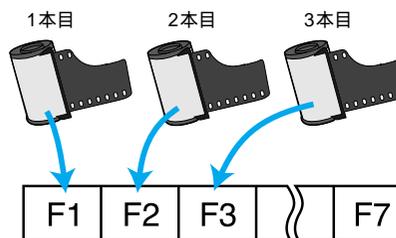
●記録されるフィルムエリア(次ページ参照)も同時に表示されます。

3.シャッターボタンを半押しします。

●ボディ表示部に DATA の表示が残ります。この状態で撮影すると、前ページの各種データがすべてカメラに記録されます。

●撮影データの記録を終えるときは、上の要領で、ボディ表示部に「OFF」を表示させてください。
●設定した内容は、カメラの電源を切っても、電池を抜いても、保持されています。
●多重露光撮影時は、1回目の露光時のデータのみ記録されます。
●フィルムが入っていなければ、データの記録はできません。

フィルムエリア

データが記録される場所(フィルムエリア)は、フィルム1本ごとに1つ必要です。このカメラには7つのフィルムエリアがあり、フィルム7本分(1本につき最大36コマ)のデータを記録することができます。

最初に撮影データの記録を始めると、必ずフィルムエリア1(F1)から順に始まり、フィルムを入れ替えるたびに自動的に次のフィルムエリアに進みます。

●コマが余っていても、2本のフィルム情報を1つのフィルムエリアに入れることはできません。また、自分で記録するフィルムエリアを選ぶこともできません。

●撮影中に撮影データメモリー(DATA)ボタンを押すと、現在どのフィルムエリアにデータを記録しているかを確認することができます。

フィルムエリアがいっぱいになったら…

8本目のフィルムを入れると(7つのフィルムエリアがすべて使用済みになると)、フィルムエリアは1に戻ります。このとき、8本目のデータは1本目のデータに上書きされ、1本目のデータは消えて行きます。

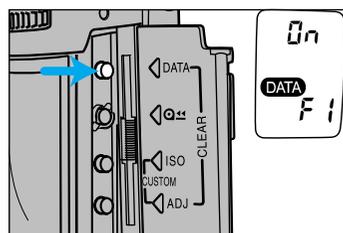
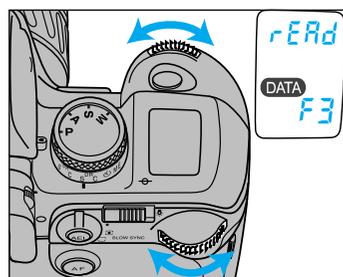
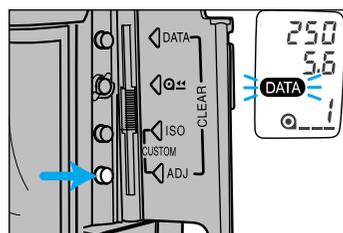
●誤って1本目のデータを消してしまわないよう、「ArEA」と警告表示が出ます。(フィルムエリアが7から1に戻るときだけです。8本目1コマ目のシャッターを切ると、この警告表示は消えます。)

●1つのフィルムエリアに上記のように1本目と8本目のデータが混在する場合、その境界では「- - - -」が表示され、区別できるようになっています。

●9本目、10本目…のフィルムを入れたときも、同様に、2本目、3本目…のデータに上書きされていきます。
●フィルムエリアがいっぱいになったら(またはなる前に)全データをいったん消去すると、新しいデータが見やすくなります(79ページ参照)。

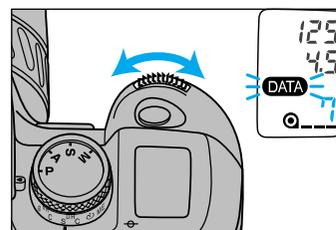
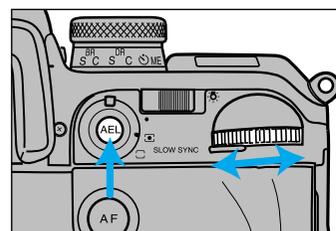
撮影データの読み出し

記録したデータを、カメラのボディ表示部に表示させることができます。

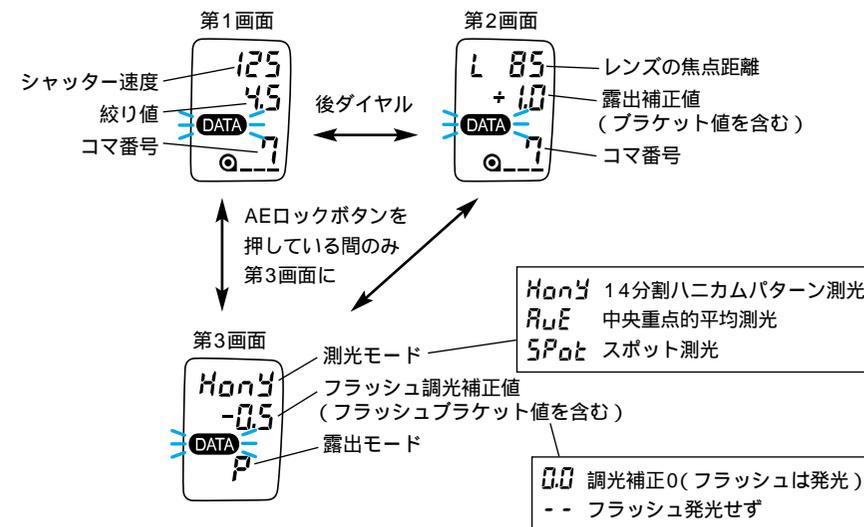
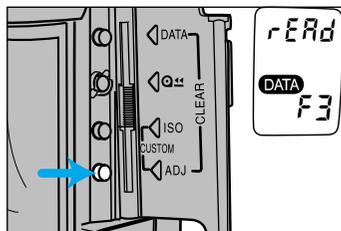
読み出しの設定

1.グリップドアを開け、撮影データメモリー（DATA）ボタンを押します。

2.前または後ダイヤルを回して、「rEAd」と読み出したいフィルムエリア（F1〜F7）を表示させます。

3.グリップドアを開け、アジャスト（ADJ.）ボタンを押します。

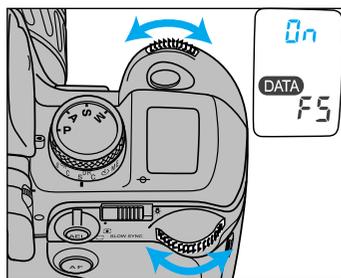
● 1コマ目第1画面（次ページ参照）がボディ表示部に現れます。

● データの読み出しの間中、DATA が点滅し続けます。

コマ番号と読み出し画面の切り替え

4.前ダイヤルで読み出したいコマ番号を選びます。

5.後ダイヤルとAEロックボタンで、表示されるデータ（第1〜第3画面）を切り替えます。

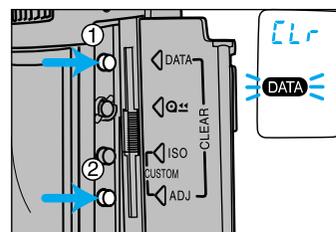
● 4、5の操作を繰り返して、希望のコマとデータを表示させてください。

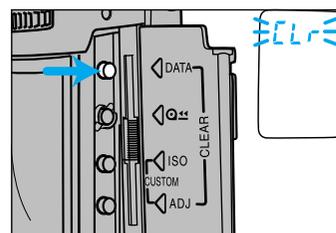
撮影データメモリー

読み出しの終了

6. グリップドアを開け、アジャストボタンを押します（またはシャッターボタンを半押しします）。

- 「rEAd」の表示に戻ります。
- 続けて別のフィルムエリアのデータを見るときは、この後ダイヤルを回してフィルムエリアを選び、アジャストボタンを押してください。

7. 前または後ダイヤルを回して、「On」または「OFF」を選び、シャッターボタンを半押しします。

- データ読み出し中または「rEAd」表示中にシャッターボタンの半押しを繰り返しても、読み出しを終えて撮影データメモリーONに戻ることができます。
- マニュアルフォーカス時は、測光モード選択レバーで14分割ハニカムパターン測光を選んでいても、常に中央重点的平均測光に近い測光方式でカメラが制御されますが（33ページ参照）、撮影データでは14分割ハニカムパターン測光として記録されます。

撮影データの消去

すべてのフィルムエリアのデータを一度に消去することができます。任意のフィルムエリアだけの消去はできません。

1. グリップドアを開け、撮影データメモリーボタンを押したまま①、アジャストボタンを押します②。

- ボディ表示部に「CLr」が現れ、DATA が点滅します。表示が出たら、ボタンから指を離してください。

2. もう一度撮影データメモリーボタンを押します。

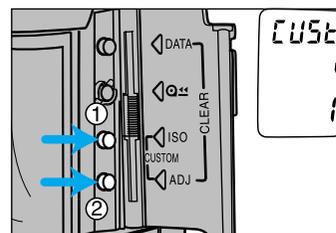
- データ消去中は、「CLr」が点滅します。データの消去が完了すると、通常の撮影表示に戻ります。
- 「CLr」の点滅中（データの消去中）は、カメラの操作はできません。

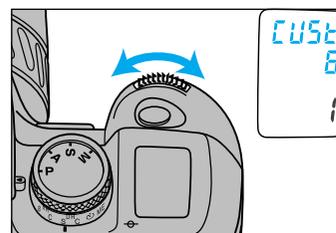
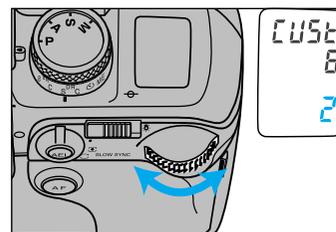
- 消去後に次のデータを記録するときには、フィルムエリアは1（F1）から始まります。

カスタム設定

撮影者のお好みの状態にカメラの各種設定を変更できます。さまざまなご要望にも対応できるよう、21にわたる設定の変更が可能となっています。

設定方法　81ページ
一覧表　82〜83ページ
詳細　84〜95ページ

カスタム設定方法

1. グリップドアを開け、フィルム感度設定（ISO）ボタンを押し①、続けてアジャスト（ADJ.）ボタンを押します②。

● カスタム設定の項目（CUSt 1〜CUSt 21）が表示されます。

2. 前ダイヤルを回して、変更したい項目（CUSt 1〜CUSt 21）を選びます（次ページ参照）。

3. 後ダイヤルを回して、設定を変更します。

4. シャッターボタンを半押しします。

● 通常の撮影表示に戻ります。

● お買い上げ時には、設定はすべて「1」になっています。
● 設定した内容は、カメラの電源を切っても、電池を抜いても、保持されています。
● カスタム設定すべてを初期状態（設定番号1）に戻すには、いったんメインスイッチをLOCKにした後、アジャストボタンを押しながらメインスイッチをONにします。ボディ表示部に「CLr」が点滅して、カスタム設定が初期状態になったことをお知らせします。

カスタム設定一覧表

項目		設定		ページ
CUST-1	オートフォーカス優先／レリーズ優先	1	オートフォーカス優先	84
		2	レリーズ優先	
CUST-2	自動巻き戻し	1	あり	84
		2	なし	
CUST-3	巻き戻した フィルムの先端	1	残さない（パトローネ内に巻き込む）	84-85
		2	残す	
		3	残す（フィルム指定コマ送り機能あり）	
CUST-4	フィルム感度変更記憶	1	なし	86
		2	あり	
CUST-5	フィルム未装填時の レリーズロック	1	なし	86
		2	あり	
CUST-6	フォーカスホールド ボタンの機能	1	フォーカスホールド機能	86-87
		2	フォーカスフレームを中央のスポット フォーカスフレームに固定	
		3	コンティニュアスAFに固定	
CUST-7	アイセンサーの作動	1	グリップを握ると作動	87
		2	グリップを握らなくても作動	
CUST-8	フィルムカウンター	1	順算	88
		2	逆算（フィルムの残りのコマ数を表示）	
CUST-9	AFフレーム選択 ボタンの機能	1	ワイドフォーカスフレームとローカル フォーカスフレームの切り替え	88
		2	ボタンを押している間、中央のスポット フォーカスフレームを選択	
CUST-10	AEロックボタンの 操作方法	1	ボタンを押している間だけ機能する	89
		2	一度押すと機能し、もう一度押すと解除	
CUST-11	ブラケットの撮影順序	1	適正露出 → 露出アンダー → 露出オーバー	89
		2	露出アンダー → 適正露出 → 露出オーバー	
CUST-12	フィルムの 巻き戻し速度	1	高速巻き戻し	90
		2	低速（サイレント）巻き戻し	

項目		設定		ページ
CUST-13	ボディ表示部の測光値 表示保持時間	1	5秒	90
		2	10秒	
		3	30秒	
CUST-14	ピントを合わせた ローカルフォーカス フレームの ファインダー内表示	1	フォーカスロック時に表示（約0.1秒）	91
		2	フォーカスロック時に表示（約0.4秒）	
		3	AFフレーム選択ボタンを押したときのみ表示	
CUST-15	アイスタート スイッチの機能	1	アイスタート機能のON/OFF切り替え	91
		2	前後ダイヤル機能ロック有効／無効の切り替え （アイスタートは常にON）	
		3	前後ダイヤル機能ロック有効／無効の切り替え （アイスタートは常にOFF）	
CUST-16	レンズ未装着時の レリーズロック	1	あり	92
		2	なし	
CUST-17	オートフォーカス 駆動速度	1	高速（スピード重視）	92
		2	低速（サイレント駆動）	
CUST-18	P/A/Sモード時の 前後ダイヤルの機能	1	P：前後ダイヤルとも機能なし A：前後ダイヤルとも絞り値の設定 S：前後ダイヤルともシャッター速度の設定	93-94
		2	P：前ダイヤルでPs、後ダイヤルでPA A/S：設定1と同様	
		3	前ダイヤル：設定1と同様 後ダイヤル：露出補正値の設定	
CUST-19	前後ダイヤルの 機能の入れ替え	1	CUST-18通りの前後ダイヤル機能	94
		2	CUST-18と逆の前後ダイヤル機能	
CUST-20	フラッシュ調光方式	1	4分割調光	95
		2	平均調光	
		3	スポット調光 （ローカルフォーカスフレーム連動）	
CUST-21	露出補正値の ボディ表示部での表示	1	なし	95
		2	あり（露出補正ダイヤル操作中のみ）	

カスタム設定詳細

お買い上げ時には、設定はすべて「1」になっています。

CUST-1 オートフォーカス優先／レリーズ優先

1. オートフォーカス優先

ピントが合わなければシャッターは切れません。

2. レリーズ優先

ピントが合っていなくても、シャッターボタンを押したときにシャッターが切れます。

- シャッターチャンスを逃さずに撮影することができます。
- ボディ表示部には「RP」が表示されます。
- ファインダー内の●または(●)が点灯してから（ピントが合ってから）撮影することをおすすめします。

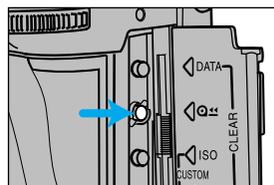
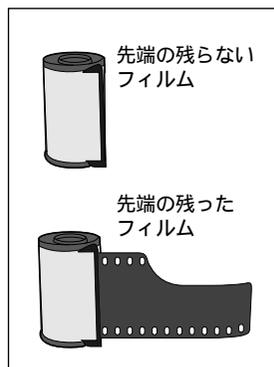
CUST-2 自動巻き戻し

1. 自動巻き戻しあり

最後のコマを撮影すると、自動的に巻き戻しが始まります。

2. 自動巻き戻しなし

最後のコマを撮影しても、巻き戻しは始まりません。巻き戻しを始めるときは、グリップドアを開け、途中巻き戻しボタンを押してください。

- 結婚式など、巻き戻しの音を立てたくないときに便利です。

途中巻き戻しボタン

CUST-3 巻き戻したフィルムの先端

1. フィルムの先端を残さない

巻き戻したフィルムは、すべてパトローネ内に巻き込まれます。

2. フィルムの先端を残す

巻き戻したフィルムはすべてパトローネ内に巻き込まれず、先端が少しパトローネの外に残ります。

3. フィルムの先端を残す（フィルム指定コマ送り機能あり）

最終コマになる前に途中で巻き戻したフィルムを、もう一度カメラに入れたときに、撮影者が指定したコマ（通常は未露光部分の始めのところ）までフィルムを進めることができます。再装填することを前提にしていますので、巻き戻したフィルムの先端は常にパトローネの外に残ります。

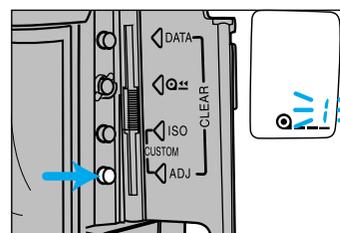
- 感度の違うフィルムや、ネガフィルム・リバーサルフィルムを、撮影場面によって使い分けたりするときに便利です。
- 何コマ目で途中巻き戻しをしたか（何コマ目までフィルムを送るか）は、撮影者ご自身でお決めください。未露光部分の開始位置をカメラが検知することはできません。
- フィルムの先端の引き出し方によって、各コマの露光位置がずれることがあります。撮影済みのコマより2コマほど多めにフィルムを送ってください。

フィルム指定コマ送り機能の操作方法

例：12コマ目まで撮影済みのフィルムを再装填し、14コマ目まで送る場合

1.カスタム設定で、CUST-3を3に設定します。

2.12コマ目まで撮影済みのフィルムをカメラに入れます。

- 通常通りフィルムが1コマ目まで進み、フィルムカウンターが「1」になります。

3.グリップドアを開け、アジャスト（ADJ.）ボタンを3秒以上押し続けます。

- フィルムカウンターの「1」が点滅を始めます。

4.「1」が点滅中に前または後ダイヤルを回して、「14」を選びます。

5.アジャストボタンを押します。

- フィルムが14コマ目まで自動的に送られます。

- 途中巻き戻しや再装填を繰り返すと、ホコリ等でフィルムが傷つく可能性があります。
- フィルムカウンターが「1」以外のときには、フィルム指定コマ送り機能は使えません。

CUST-4 フィルム感度変更記憶

1. フィルム感度変更記憶なし

撮影者がフィルム感度の設定・変更を行った場合でも、その設定は該当するフィルム１本のみのものとして扱われます。

2. フィルム感度変更記憶あり

撮影者がフィルム感度の設定・変更を行った場合、次に同じ感度のフィルムを入れると、同様の変更が自動的になされます。（例：ISO 50のフィルムをISO 40に変更した場合、次にISO 50のフィルムを入れると、フィルム感度は自動的にISO 40になります。）

- リバーサルフィルムを頻繁に好みの感度に合わせて使われる方に便利です。
- いったん違う感度のフィルムを入れると、記憶されたフィルム感度はリセットされます。

CUST-5 フィルム未装填時のレリーズロック

1. フィルム未装填時のレリーズロックなし

カメラにフィルムを入れなくても、シャッターを切ることができます。

2. フィルム未装填時のレリーズロックあり

フィルムが入ってなければシャッターは切れません。

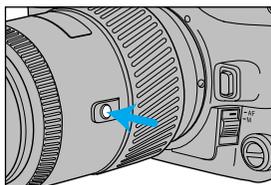
- フィルムを入れ忘れたまま撮影するという失敗を防ぎます。
- フィルムを入れずにシャッターボタンを押すと、シャッターは切れず、ボディ表示部とファインダー内の「0」が点滅します。
- フィルムを入れていなくても、ボディ表示部照明スイッチを押しながら、または裏ぶたを開けたままの状態だと、シャッターを切ることができます。

CUST-6 フォーカスホールドボタンの機能

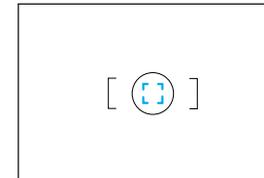
レンズ上のフォーカスホールドボタンの機能を変更します（フォーカスホールドボタン付きのレンズのみ）。

フォーカスホールドボタン

1. フォーカスホールド機能

フォーカスホールドボタンを押している間、ピント位置が固定されます。

2. フォーカスフレームを中央のスポットフォーカスフレームに固定

フォーカスホールドボタンを押している間、ピント合わせはワイドフォーカスフレームではなく、中央のスポットフォーカスフレームで行なわれます。

- 大勢の中の一人にピントを合わせたりするときに便利です。

スポットフォーカスフレーム

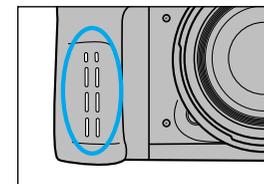
3. コンティニュアスAFに固定

フォーカスホールドボタンを押している間、コンティニュアスAFになり、ピントを合わせ続けます。

- 動いているものを撮影するときに便利です。

CUST-7 アイセンサーの作動

メインスイッチがONの状態でグリップを握ると、グリップセンサーがそれを検知して、アイセンサーの作動を開始させます。アイセンサーが作動しているときにファインダーに顔を近付けると、カメラを構えていると分かるので、撮影準備（ピント合わせと露出の決定）が行なわれます。

- アイスタートスイッチをOFFにしているときは、この設定は関係ありません。

グリップセンサー

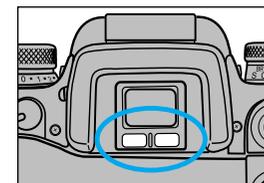
アイセンサー

1. グリップを握ると作動

グリップを握ったことをグリップセンサーが検知すると、アイセンサーの作動が開始します。

2. グリップを握らなくても作動

メインスイッチをONにすると、グリップを握らなくても、すぐにアイセンサーの作動が開始します。

- カメラを三脚に取り付けているとき、手袋をしているときなどに便利です。
- この設定にすると、メインスイッチをONにしただけでアイセンサーの検知が始まります。電池の消耗を防ぐため、カメラを使わないときにはメインスイッチをできるだけOFFにしてください。

CUST-8 フィルムカウンター

1. 順算フィルムカウンター

フィルムを入れると、フィルムカウンターが「1」になり、撮影するたびに1つずつ増えて行きます。

2. 逆算フィルムカウンター

フィルムカウンターには、フィルムの残りのコマ数が表示されます。

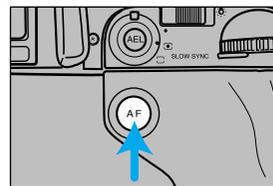
- DXコードの付いていないフィルム、またはDXコードがあってもフィルム枚数情報を持っていないフィルムの場合は、順算フィルムカウンターのままになります。

CUST-9 AFフレーム選択ボタンの機能

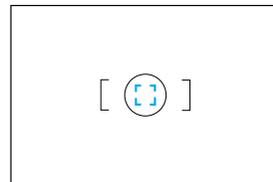
AFフレーム選択ボタンの機能を変更します。

1. ワイドフォーカスフレームとローカルフォーカスフレームの切り替え

AFフレーム選択ボタンを押している間にダイヤルを回すと、ピントを合わせるローカルフォーカスフレームを選ぶことができます（31ページ参照）。

- ご自分で自由にピント位置を決められたいときに便利です。

AFフレーム選択ボタン

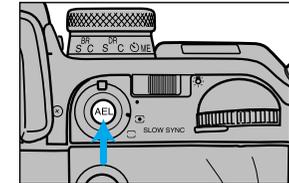
2. 押している間、中央のスポットフォーカスフレームを選択

AFフレーム選択ボタンを押している間、ピント合わせはワイドフォーカスフレームではなく、中央のスポットフォーカスフレームで行なわれます。

スポットフォーカスフレーム

CUST-10 AEロックボタンの操作方法

AEロックボタンの操作方法を変更します。

1. ボタンを押している間だけ機能する

AEロックボタンを押している間のみ、AEロックまたはスローシンクロ等になります。ボタンを押しながらシャッターを切ってください。

AEロックボタン

2. 一度ボタンを押すと機能し、もう一度押すと解除

AEロックボタンを一度押して離すと、AEロックまたはスローシンクロ等になります。シャッターを切るときに、AEロックボタンを押し続ける必要がありません。解除するときは、もう一度AEロックボタンを押してください。

- 機能している間は、ファインダー内にAELが表示されます。
- フラッシュ発光の有無を切り替える、メインスイッチをOFFにする等の操作でも解除されます。

CUST-11 ブラケットの撮影順序

ブラケット撮影、フラッシュブラケット撮影の撮影順序を変更することができます。ここで選択した設定は、ブラケット撮影、フラッシュブラケット撮影の両方に適用されます。

1. 適正露出→露出アンダー→露出オーバー

最もシャッターチャンスの大きい1枚目が適正露出になり、後になるほど露出のずれ量が大きくなります。

- 例：ブラケット段数0.5段、撮影枚数5枚の場合
  ±0段 → −0.5段 → ＋0.5段 → −1.0段 → +1.0段

2. 露出アンダー→適正露出→露出オーバー

露出が暗いほうから順に並びます。

- 例：ブラケット段数0.5段、撮影枚数5枚の場合
  −1.0段 → −0.5段 → ±0段 → ＋0.5段 → +1.0段
- リバーサルフィルムのスリーブ仕上げなどの際に便利です。

CUST-12 フィルムの巻き戻し速度

フィルムの巻き戻し速度を変更します。自動巻き戻し、途中巻き戻しともに有効です。

1. 高速巻き戻し

36枚撮りフィルムを約6秒、24枚撮りフィルムを約4秒の速度で巻き戻します。

2. 低速（サイレント）巻き戻し

巻き戻しの音が小さくなります。巻き戻し速度はやや遅くなります（36枚撮りフィルムで約9秒、24枚撮りフィルムで約5秒）。

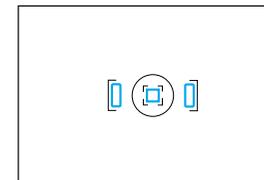
CUST-13 ボディ表示部の測光値表示保持時間

シャッターボタンを半押しすると、カメラの測光値（シャッター速度と絞り値）がボディ表示部に表示されます。その表示保持時間を変更します。表示部の照明の点灯時間も同時に変更されます。

1. 5秒　**2. 10秒**　**3. 30秒**

- 10秒、30秒設定は、測光値表示の消灯が早くて操作しにくい場合にお使いください。
- 10秒、30秒に設定すると、電池の消耗が早くなり、撮影可能本数が記載値よりも少なくなります。

CUST-14 ピントを合わせたローカルフォーカスフレームのファインダー内表示

３つのローカルフォーカスフレーム（センサー部）のうち、ピントの合ったフレームが一瞬赤く点灯します。点灯時間等を変更することができます。

ローカルフォーカスフレーム

1. フォーカスロック時に表示（約0.1秒）　**2. フォーカスロック時に表示（約0.4秒）**

シャッターボタンを半押しするなど、ピント位置が固定されたときに点灯します。

- AFフレーム選択ボタンを押したときにも点灯します。

3. AFフレーム選択ボタンを押したときのみ表示

AFフレーム選択ボタンを押したときのみ点灯します。

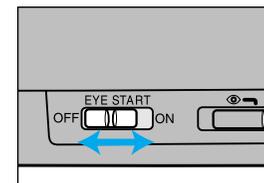
- シャッターボタン半押しでは点灯しません。シャッターを切るたびに点灯するのがわずらわしい場合にご使用ください。

CUST-15 アイスタートスイッチの機能

アイスタートスイッチの機能を変更します。

アイスタートスイッチ

1. アイスタート機能のON/OFF切り替え

ONにするとアイスタート機能が働き、OFFにすると働きません。

2. 前後ダイヤル機能ロック有効／無効の切り替え（アイスタートは常にON）

アイスタートスイッチが前後ダイヤル機能ロックスイッチとなります。ONにするとダイヤル機能がロックされ、ダイヤルを回してもいっさい操作を受け付けなくなります。OFFにするとダイヤル操作が可能となります。アイスタートは常に機能している状態になります。

- ダイヤル機能ロックONは、誤って前後ダイヤルを回しても設定が変わらないようにしたいときにお使いください。

3. 前後ダイヤル機能ロック有効／無効の切り替え（アイスタートは常にOFF）

アイスタートスイッチが前後ダイヤル機能ロックスイッチとなります。アイスタートは一切機能しません。

- アイスタートが機能しないという点以外は、設定2と同じです。

CUST-16 レンズ未装着時のレリーズロック

1. レンズ未装着時のレリーズロックあり

カメラにフィルムが入っている場合、レンズを取り付けていなければシャッターは切れません。

- レンズが取り付けられていない状態で誤って撮影が行われるのを防ぎます。
- シャッターボタンを押すと、ボディ表示部に「- -」が点灯または点滅します。

2. レンズ未装着時のレリーズロックなし

フィルムが入っていてレンズが取り付けられていなくても、シャッターを切ることができます。

- カメラを天体望遠鏡に取り付ける場合など、ミノルタAFレンズ以外のレンズで撮影したいときにご使用ください。

CUST-17 オートフォーカス駆動速度

オートフォーカスの速度を変更します。

1. オートフォーカス高速駆動（スピード重視）

最速でオートフォーカスが作動してピントを合わせます。

2. オートフォーカス低速駆動（サイレント駆動）

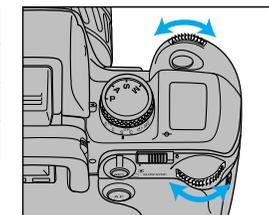
オートフォーカスの音が小さくなります。また、ピントが合いにくいものにも合わせやすくなります。

- 静かに撮影したい場合、暗い場面やクローズアップでピントが合いにくい場合などに便利です。

CUST-18 P/A/Sモード時の前後ダイヤルの機能

P/A/Sモード時の前後ダイヤルの機能を変更します。

1. 基本設定

	前ダイヤル	後ダイヤル
Pモード	機能なし	機能なし
Aモード	絞り値の設定	絞り値の設定
Sモード	シャッター速度の設定	シャッター速度の設定

前ダイヤルと後ダイヤル

2. PモードでPA/Psシフト

	前ダイヤル	後ダイヤル
Pモード	Psシフト	PAシフト
Aモード	絞り値の設定	絞り値の設定
Sモード	シャッター速度の設定	シャッター速度の設定

Pモードで、測光値（絞り値とシャッター速度）が表示されている状態でダイヤルを回すと、一時的に絞り値とシャッター速度の組み合わせを変更することができます。
後ダイヤルと回すと、希望の絞り値を選択することができます（PAシフト）。
前ダイヤルと回すと、希望のシャッター速度を選択することができます（Psシフト）。

- フラッシュは使用できません。フラッシュが発光する場合は、ダイヤルを回しても数値は変わりません。
- 測光値保持時間（90ページ参照）を過ぎて測光値が消えたり、フラッシュをONにしたりすると、選択した絞り値／シャッター速度も解除されます。
- 絞り値やシャッター速度が点滅している場合は、適正露出が得られません。点滅しなくなるまでダイヤルを回してください。

3. 後ダイヤルで露出補正値の設定

	前ダイヤル	後ダイヤル
Pモード	機能なし	露出補正値の設定
Aモード	絞り値の設定	露出補正値の設定
Sモード	シャッター速度の設定	露出補正値の設定

P/A/Sモードとも、後ダイヤルを回すと露出補正値の設定になります。
- 大きめのレンズを手持ちで撮影するときなど、レンズから左手を離しにくい場合に便利です。
- 露出補正ダイヤルが０の位置でのみこの機能は有効です。０以外だと、露出補正ダイヤルの設定が優先されます。
- 設定した露出補正量は、測光インジケーターに表示されます。後ダイヤルを回すと、ファインダー下部の表示は消えます。
- 露出補正ダイヤルが1/2段ステップになっていれば、後ダイヤルを回しても1/2段ごとの補正になります。1/3段ステップも同様です。
- 1/3段ステップの場合、露出補正ダイヤルを使うと露出補正範囲は±2段までですが、後ダイヤルを使うこの方法だと、±3段までの補正が可能です。

CUST-19 前後ダイヤルの機能の入れ替え

CUST-18の前ダイヤルと後ダイヤルの機能をそっくり入れ替えることができます。

1. CUST-18通りの前後ダイヤル機能

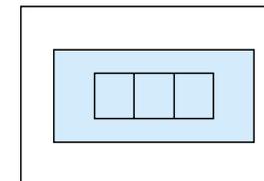
2. CUST-18と逆の前後ダイヤル機能

- ブラケット撮影設定、撮影データの読み出し、カスタム設定時には、前後ダイヤル機能は入れ替わりません。

CUST-20 フラッシュ調光方式

このカメラには、フラッシュ調光として4分割TTLダイレクト調光方式が採用されていますが、撮影者の好みによって変更することができます。
- 内蔵フラッシュにも別売りのプログラムフラッシュにも共通です。

1. 4分割調光

フラッシュ発光時には4分割フラッシュ調光方式を使って露出を決定します。
- オートフォーカスと連動しているので、カメラが被写体の位置と明るさを的確に判断し、露出を決定します。

4分割調光素子

2. 平均調光

フラッシュ発光時には、画面全体の明るさを平均的に調光します。
- 従来の分割のないTTL調光方式で撮影したい方に便利です。

3. スポット調光

4分割調光素子のうち、ピントの合った部分のローカルフォーカスフレーム位置に該当する素子のみを使用して調光します。
- シャッターボタンを半押しした状態で構図を変えないでください。半押しでフォーカスロックされたローカルフォーカスフレームの位置の素子がそのままフラッシュ調光に使われるため、撮影時にその部分に被写体がないと、適正露出が得られません（スポット調光時のみ）。

CUST-21 露出補正値のボディ表示部での表示

1. 露出補正値のボディ表示部での表示なし

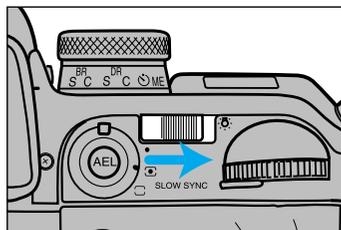
露出補正ダイヤルを回して露出補正を行う場合、ボディ表示部には何も表示されません。

2. 露出補正値のボディ表示部での表示あり

露出補正ダイヤルを回して露出補正を行う場合、ボディ表示部に設定中の露出補正量が表示されます（2秒間のみ）。
- CUST-18を3にして、後ダイヤルで露出補正値を設定する場合にも有効です。
- 露出補正ダイヤルを回すと、ファインダー下部の表示は消えます。

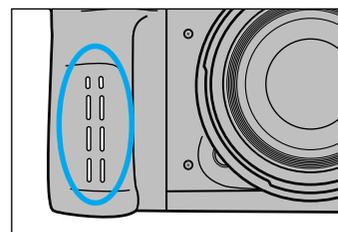
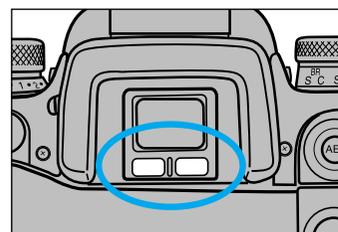
その他

ボディ表示部照明

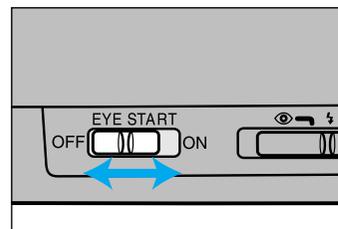
ボディ表示部の照明を点灯することができます。

ボディ表示部照明スイッチを ☼ の方向に押します。

- 5秒間照明が点灯します。その間にカメラ操作を行うと、点灯時間は延長されます。

- 点灯時間を延長することもできます（81、90ページ参照）。
- 露出モードダイヤル・露出補正ダイヤルの表示と指標部分には、蓄光性の蛍光材を使用しています。太陽光に20分間当てると、約5時間発光し続けます。

アイスタート（カメラを構えるだけで撮影準備が完了します）

グリップセンサー

アイセンサー

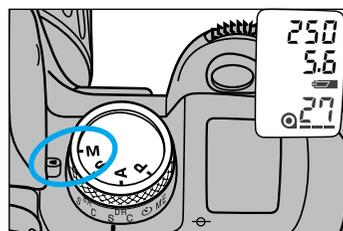
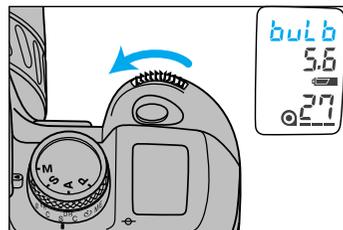
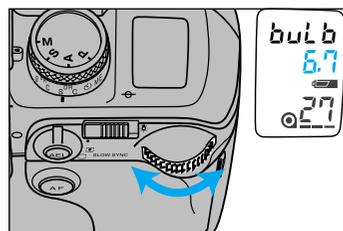
このカメラは、構えるだけで撮影準備が整う「アイスタート」を搭載しています。アイスタートスイッチをONにしている場合、メインスイッチをONにすると、まずグリップセンサーのスイッチが入ります。撮影者がグリップを握ったことをグリップセンサーが検知すれば、次にアイセンサーのスイッチが入ります。アイセンサーに何かが近づくと（撮影者がファインダーをのぞくと）、カメラを構えたことが検知され、自動的にピント合わせと露出の決定が行われます。

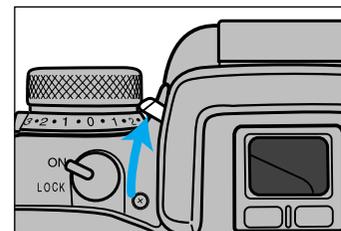
アイスタートの作動・停止

ボディ背面のアイスタートスイッチをONまたはOFFにします。

- カメラを三脚に取り付けている等グリップから指が離れているときや、グリップセンサーに触っていても手袋をしているときは、アイスタートは作動しません。また、手が乾燥していると作動しにくくなることがあります。このような場合はシャッターボタンを半押ししてください。
- グリップセンサーに触らなくてもアイスタートが作動するように、カメラの設定を変更することができます（81、87ページ参照）。
- アイスタートスイッチを、前後ダイヤルの機能ロックスイッチとして使うこともできます（81、91ページ参照）。

長時間露光（バルブ撮影）

シャッターボタンを押し続けている間、シャッターが開いたままになります。長時間の露光が必要なときに使用します。

● バルブ撮影のときは、カメラを三脚に取り付けて撮影してください。

1. 露出モードダイヤルをMにします。

2. 前ダイヤルを左へ回して、「buLb」を選びます。

3. 後ダイヤルを回して、希望の絞り値を選びます。

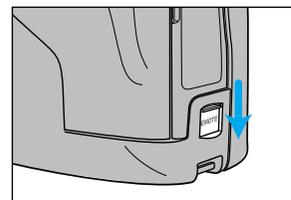
4. 構図を決めます。

5. アイピースシャッターレバーを上げて、アイピースシャッターを閉じます。

● ファインダーから光が入って露出に影響するのを防ぐためです。

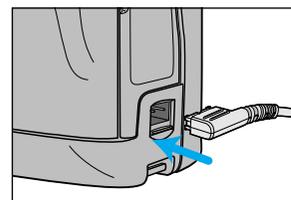
6. 必要な時間、シャッターボタンを押し続けます。

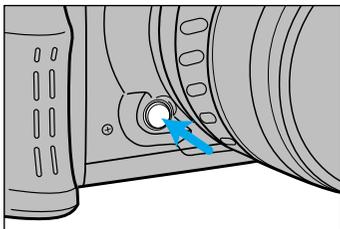
● カメラぶれを少なくするためには、別売りのリモートコードの使用をおすすめします。

リモートコードについて

別売りのリモートコードRC-1000SまたはRC-1000Lを取り付ければ、カメラから離れてシャッターを切ることができます。カメラぶれを防ぐと同時に、シャッターボタンを長時間押したまま固定することもできます。

取り付け方

リモートレリーズターミナルのカバーを下ろして、コードをターミナルに接続します。

● コードをレンズ側にして接続してください。

プレビュー（絞り込み）

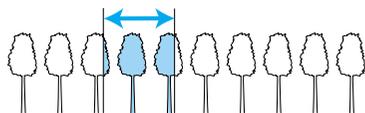
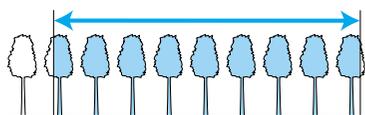
プレビュー機能を使うと、実際の撮影のときの絞りまで絞り込まれるので、撮影前におおよその被写体のぼけ具合を確認することができます。

ピントを合わせた後、プレビュー（絞り込み）ボタンを押します。

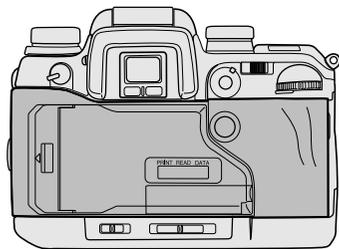
- 押している間、表示されている絞り値まで絞りが絞り込まれます。ピントと露出は固定されます。
- 絞りが絞り込まれるため、ファインダー内の画像は暗くなります。

- シャッターボタン半押し状態でプレビューボタンを押した場合、そのままシャッターボタンを押し込んで撮影することができます。それ以外の操作をしても、プレビューボタンから手を離すまでは何も変化しません。
- プレビューボタンを離すとプレビューは解除されます。このときミラーが動くため、一瞬ファインダー内の像が見えなくなります。
- プレビューボタンを押したときにピントが合わなかった場合（ファインダー内に●が点滅または(( ))が点灯）は、シャッターは切れません。
- ハイスピードシンクロ撮影になる場合（ファインダー内に*H*が点灯）は、プレビューボタンを押しているとシャッターは切れません。

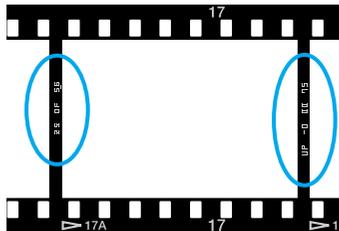
被写界深度について

ピントを合わせた被写体の前後には、写真として実用上ピントが合って写る範囲があり、これを「被写界深度」といいます。F1.4、F2など絞りが開放側になる（絞り値が小さい）ほど、被写界深度は浅く（＝ピントが合って写る範囲は狭く）、F22、F32など絞りが絞り込まれる（絞り値が大きい）ほど、被写界深度は深く（＝ピントが合って写る範囲は広く）なります。

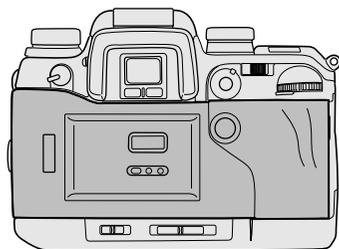
絞りが開いている状態
（被写界深度は浅い）

絞りが絞り込まれている状態
（被写界深度は深い）

α-9 専用アクセサリー

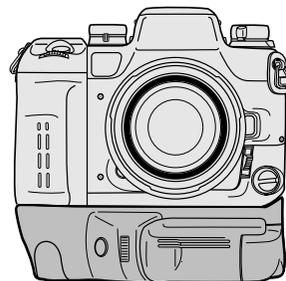
撮影データメモリーバック DM-9

スマートメディアへの撮影データの記録や、フィルムコマ間へのデータの写し込みができます。

撮影データメモリー機能

18項目、フィルム400本分の撮影データを、付属のスマートメディア（2MB）に記録できます。スマートメディアに記録したデータをパソコンに読み込んで、表計算ソフトで一覧表にすることもできます。パソコンをお持ちでない方には、弊社サービスセンター・サービスステーションにて、データのプリントアウトサービスも行なっています（有料）。

撮影データ写し込み機能

フィルムのコマ間に、シャッター速度と絞り値、撮影年月日、固定ナンバー、カウントアップナンバーなどから１つを選んで入れることができます。フィルムの通し番号（データナンバー）が記録データとともに残り、同時に同じ番号がフィルム先端部にも入るので、データとフィルムの照合も楽に行うことができます。

クォーツデータバック QD-9

日付・時間をフィルムやプリント上に写し込むことができます。

縦位置コントロールグリップ VC-9

縦位置でも横位置と変わらない操作性を確保。また4種類の電池の使用も可能です。カバー素材には亜鉛ダイキャストを使用し、カメラ本体と同等の強度を確保しています。ホールディングストラップ付き。

縦位置での良好な操作性を確保

縦位置用シャッターボタン、ON/OFFスイッチのほか、前後ダイヤル、AEロックボタン、AFフレーム選択ボタン、グリップセンサーなど、横位置と同じ感覚で操作できます。

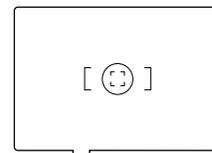
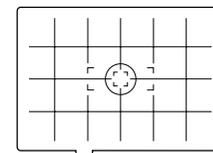
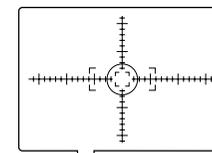
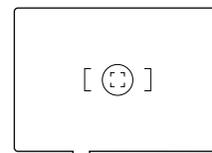
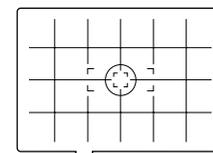
4種類の電池に対応

CR123A、2CR5、単3アルカリ、単3ニッカドの4種類の電池が使用可能です。カメラ本体の電池も入れたままにして、必要に応じて本体とコントロールグリップの電源を切り替えることができます。

交換用フォーカシングスクリーン9

標準装備のマット（G型）のほかに、方眼マット式（L型）、目盛り線式（S型）があります。また、開放絞り値がF1.4〜2.8クラスの明るいレンズをマニュアルフォーカスで使用される方のために、ピントの山やぼけ具合がつかみやすいスーパースフェリカルアキュートマット採用の全面マット（M型、ML型）も用意しています。

● 標準マットで一部の望遠レンズを取り付けた際、ファインダー周辺部が陰ることがあります。これは焦点板の拡散特性によるもので、画質には影響しません。

資料

その他のアクセサリー

専用アクセサリー以外にも、数多くのレンズやフラッシュ等のアクセサリーを揃えています。

レンズ

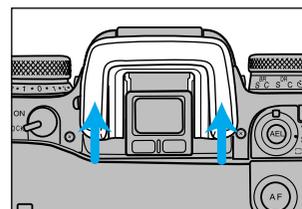
すべてのαレンズ、α-Xiレンズが使用できます。それ以外のレンズ（Vレンズ、MDレンズ、MCレンズなど）はご使用になれません。

フラッシュ

内蔵フラッシュでは光が届かないような距離でも、より大光量のプログラムフラッシュやベクティスフラッシュを用いれば、美しいフラッシュ撮影ができます。

- プログラムフラッシュ5400HS、5400xi、3500xi、2000xi、5200i、3200i、2000i、ベクティスフラッシュSF-1は、そのままご使用になれます。
- AFシリーズ以前のフラッシュ（オートエレクトロフラッシュなど）は、このカメラでは使えません。
- プログラムフラッシュ4000AF、2800AF、1800AF、マクロフラッシュ1200AFをご使用になる場合は、以下の点にご注意ください。
  - カメラに取り付ける際には、別売りのフラッシュシューアダプターFS-1100が必要です。
  - フラッシュのAF補助光は発光しません。

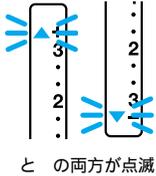
その他

アングルファインダー、マグニファイヤーなど、ファインダー部分にアクセサリーを取り付ける場合は、アイピースカップを外してください。

外し方
アイピースカップの両側を上に押し上げて外します。

- コントロールグリップCG-1000、データレシーバーDR-1000は使用できません。

この使用説明書は1998年11月に作成されたものです。それ以降に発売されたアクセサリーとの組み合わせは、本書裏表紙に記載の弊社フォトサポートセンターにお問い合わせください。

表示が点滅したときは（露出の警告）

そのまま撮影すると適正露出が得られないときは、測光値表示が点滅してお知らせします。点滅しないように設定を変更してください。

	表示部	原因	処置
P/A/S/M	▲と▼の両方が点滅	被写体が明るすぎる、または暗すぎて、カメラの測光範囲を超えています。	被写体が明るすぎるときは、NDフィルターを使うか、被写体が暗くなるようにします。 被写体が暗すぎるときは、フラッシュ撮影を行なうか、被写体が明るくなるようにします。
P	シャッター速度と絞り値が点滅	被写体が明るすぎる、または暗すぎて、使用レンズの絞り値、シャッター速度の範囲を超えています。	
A	12000、300、または30 "が点滅	被写体が明るすぎる、または暗すぎて、シャッター速度の範囲を超えています。	シャッター速度が点滅しないように、絞り値を変更します。
S	最大または最小絞り値が点滅	被写体が明るすぎる、または暗すぎて、使用レンズの絞り値の範囲を超えています。	絞り値が点滅しないように、シャッター速度を変更します。

不具合が生じたときは

故障かな？と思ったときは、次のことを調べてみてください。それでも調子が悪いときや同じ症状が繰り返されるとき、また分からないときは、裏表紙記載の弊社フォトサポートセンターにお問い合わせください。

症状	点検項目	処置	ページ
ピントが合わない	オートフォーカスの苦手な被写体（20ページ）を撮ろうとしていませんか。	フォーカスロック、またはマニュアルフォーカス撮影を行なってください。	21 32 33
	被写体に近づきすぎていませんか。	レンズの最近接撮影距離より離れて撮影してください。（最近接撮影距離については、レンズの使用説明書をご覧ください。）	–
シャッターが切れない	ピントは合っていましたか。	ピントが合わないとシャッターは切れません。（ピントが合わなくてもシャッターが切れるようにすることもできます。）	84
	カメラを天体望遠鏡などに取り付けていませんか。	天体望遠鏡などにカメラを取り付けた場合は、フィルムが入っているとシャッターが切れません。（この状態でもシャッターが切れるようにすることもできます。）	92
	カスタム設定でレリーズロックにしませんでしたか。	カスタム設定でフィルム未装填時のレリーズロックありにしている場合は、フィルムを入れるか、設定を変えてください。	86
フラッシュ撮影したものが全体的に暗い	フラッシュ光の届く範囲で撮影しましたか。	フラッシュ光の届く範囲で撮影してください。別売りのプログラムフラッシュご使用の際は、フラッシュの使用説明書をご覧ください。	23
フラッシュ撮影したものの下部が暗い	レンズフードを付けたまま撮影しませんでしたか。	カメラの内蔵フラッシュで撮影するときは、レンズフードを外して、1m以上離れて撮影してください。	–
ボディ液晶表示部に「Err」が表示される、またはカメラが正常に作動しない	電池を一度取り出し、入れ直してください。それでも直らない場合や何度も繰り返して表示される場合は故障ですので、「アフターサービスのご案内」に記載の当社サービスセンター・サービスステーションにお問い合わせください。		10

取り扱い上の注意

電池について

● 電池の性能は低温になるほど低下します。寒いところでご使用になるときは、カメラを保温しながら撮影してください。海外旅行や寒いところでは、予備の電池をご用意されることをおすすめします。なお、低温のために性能が低下した電池でも、常温に戻せば性能は回復します。
● 新品電池を初めてお使いのとき、それまでその電池が保管されていた状況によっては、メインスイッチをONにすると が点滅することがあります。この場合はメインスイッチを何度か切ったり入れたりすると、電池容量が回復します。

使用環境について

● このカメラの使用温度範囲は－20℃～50℃です。
● 直射日光下の車内など極度の高温下や、湿度の高いところにカメラを放置しないでください。
● 液晶表示は、低温下で反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻せば正常に作動します。
● カメラに急激な温度変化を与えると内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から温かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋に入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度になじませてからカメラを取り出してください。
● このカメラは防塵防滴性に配慮した設計がなされてますが、防水性能は備えていません。雨中で使用されるときは、カメラやレンズに雨がかからないようにしてください。使用後、汚れた場合はカメラを清掃してください。水、砂、ホコリ、塩分等がカメラに残っていると、故障の原因になります。

その他

● カメラは精密機械ですので、取り扱いには注意してください。特に、シャッター幕、ミラー、レンズの信号接点などに傷がつかないように気を付けてください。
● カメラに強い衝撃を与えないでください。
● バッグなどに入れて持ち運ぶときは、メインスイッチをLOCK位置にしてください。
● 飛行機をご利用の際は、未現像フィルムやフィルムの入ったカメラは、機内持ち込みされることをおすすめします。預け入れ荷物に入れると、場合によってはX線検査でフィルムが感光する恐れがあります。
● 万一故障した場合、暗室やダークボックスで裏ぶたを開けて巻き戻し前のフィルムを取り出す際には、露出モードダイヤルおよび露出補正ダイヤル上部とそれぞれの指標部分を、黒いテープ等で覆ってください。フィルムが特殊蛍光材の上を通ると露光する恐れがあります。

手入れと保管の仕方

手入れのしかた

● カメラボディやレンズの外側を清掃するときは、柔らかいきれいな布で軽く拭いてください。砂がついたときは、こするとカメラに傷を付けますので、ブロアーで軽く吹き飛ばしてください。
● レンズ面を清掃するときは、ブロアブラシでホコリ等を取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーを染み込ませ、レンズの中央から円を描くようにして軽く拭いてください。レンズクリーナーを直接レンズ面にかけることはお避けください。
● シャッター幕、ミラーなど、カメラの内部に触れないでください。ミラーのほこりは露出には影響しませんが、オートフォーカスには影響を及ぼす恐れがあるため、ミラーおよびその周辺のほこりを取る場合は、ブロアーでほこりを吹き飛ばしてください。また、内部をボンベタイプのブロアーで吹かないでください。故障の原因になります。
● シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。
● レンズ面に直接指で触れないでください。

保管のしかた

● 使用しないときは、必ずレンズキャップまたはボディキャップを付けてください。
● 保管するときは、涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ホコリや化学薬品のないところに保管してください。長期間の保存には、密閉した容器に乾燥剤と一緒に入れるとより安全です。
● 防虫剤の入ったタンスなどに入れないでください。
● 保管中も時々電源を入れて、空シャッターを切るなどの操作をしてください。また、ご使用前には整備点検されることをおすすめします。

海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは

● 前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてからご使用ください。また、予備の電池を携帯することをおすすめします。
● 万一、このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

アフターサービスについて

● 本製品の補修用性能部品は、生産終了後10年間を目安に保有しています。
● アフターサービスについては、「アフターサービスのご案内」に詳しく記載していますので、そちらをご覧ください。
● 修理の際に、撮影データやユーザー設定情報（カスタム設定、登録設定など）が消えてしまうことがありますので、ご了承願います。

主な性能

カメラタイプ	レンズ交換式フラッシュ内蔵35mmAF・AE一眼レフカメラ
オートフォーカス	方式：TTL位相差検出方式　検出素子：CCDラインセンサー（｜＋｜型）　検出範囲：EV－1～18（ISO100）　動体予測フォーカス制御：像面速度MAX12mm／秒に対して動体補正可能　AF制御自動切り替え／コンティニュアスAF／ワンショットAF切り替え可能
AF補助光	ボディ内蔵LED　低輝度、低コントラスト時自動発光　作動距離範囲：約0.7～7m（50mm標準レンズ）　プログラムフラッシュ装着時、必要に応じてフラッシュの内蔵AF補助光に自動切り替え
測光方式	TTL開放測光（14分割ハニカムパターン測光、中央重点的平均測光、スポット測光）　測光素子：14分割ハニカムパターンSPC（シリコンフォトセル）、4分割フラッシュ光調光用SPC　測光範囲：14分割ハニカムパターン測光時：EV0～20　中央重点的平均測光時：EV0～20　スポット測光時：EV3～20（ISO100、F1.4レンズ使用時）
シャッター	電子制御式縦走りフォーカルプレーンシャッター　シャッター速度：1/12000～30秒、バルブ（新品電池使用時約7時間）　フラッシュ同調最高速度：1/300秒　ハイスピードシンクロ機能使用時は1/12000秒　後幕シンクロ・ワイヤレスフラッシュ撮影時は1/60秒
内蔵フラッシュ	ガイドナンバー：12（ISO100・m）　照射角：焦点距離24mm　充電時間：約2.5秒（カメラと電源を共有）　アップ時強制発光、ダウン時発光禁止　赤目軽減プリ発光選択可能
ファインダー	アイレベル固定式　ガラスペンタプリズム　視野率：約100%×約100%（50mm/F1.4、∞位置）　倍率：0.73倍（50mm、∞位置）　視度：－1ディオプター　視度調整：－3～＋1ディオプター（視度調整アタッチメントによる調整も可能）　アイポイント：最終光学面より22.1mm、接眼枠より18.3mm
フォーカシングスクリーン	フォーカシングスクリーン：スフェリカルアキュートマット　交換可能（G、L、S、M、ML型）
フィルム給送	オートローディング（1コマ目まで自動送り）　1コマ撮影／5.5コマ/秒連続撮影（AF追随4.5コマ／秒）／2コマ/秒連続撮影／1コマ撮影露出ブラケット／連続撮影露出ブラケット／セルフタイマー（10秒）／簡易ミラーアップ機能／多重露光　自動巻き戻し　途中巻き戻し可能　巻き戻し時間：高速巻き戻し時約4秒（24枚撮り）、約6秒（36枚撮り）　低速（サイレント）巻き戻し時約5秒（24枚撮り）、約9秒（36枚撮り）
フィルム感度	DXコード付きフィルム使用時は自動設定（ISO25～5000）手動設定可能（ISO6～6400、1/3ステップ）　DXコードの付いていないフィルム使用時は前回のフィルム感度を自動設定　フラッシュ撮影時はISO25～1000のフィルムを推奨
電源	3Vリチウム電池（CR123A型）２個
撮影可能本数	試験条件：AFズーム24-85mm F3.5-4.5・24枚撮りフィルム・新品電池使用　24枚撮りフィルムは1ヵ月に3本、36枚撮りフィルムは1ヶ月に2本の割合で撮影　1コマごとにレンズを無限遠から2mまで3回駆動させ、シャッターボタン半押しで10秒保持後撮影、その他撮影準備を含む

温度	24枚撮りフィルム		36枚撮りフィルム	
	20℃	－20℃	20℃	－20℃
フラッシュ使用しない	約45本	約40本	約30本	約28本
フラッシュ50%使用	約23本	約15本	約15本	約10本
フラッシュ100%使用	約14本	約9本	約9本	約6本

- カメラの使い方により撮影可能本数は変わります。
- 電池を長持ちさせるために、撮影しないときはメインスイッチをLOCKにしてください。

大きさ	155（幅）×111（高さ）×75（奥行き）mm
重さ	945g（電池別）

本書に記載の性能は当社試験条件によります。
本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

CE　ボディ底面のこのマーク（CEマーク）は、本製品が電気安全・電波障害に関するEU（欧州連合）の要求事項に適合していることを示すものです。CEとはフランス語のConformité Européenne（ヨーロッパ認定）の頭文字です。

索引　（　）内は参照ページです。

用語（ページ）	説明
オートフォーカスサイレント駆動（92）	ピント合わせの音を小さくすることができます。
簡易ミラーアップ機能（2秒セルフタイマー機能）（54）	シャッターボタンをすとミラーが上がり、2秒後にシャッター幕が開いて撮影されます。
逆算フィルムカウンター（88）	フィルムの残り枚数を表示させることができます。
コンティニュアスAF（28）	シャッターボタンを半押ししている間、ピントを合わせ続けます。
自動巻き戻し禁止（84）	最後のコマを撮影した時でも、自動的に巻き戻しが始まらないようにすることができます。
スポット測光（45）	測光方式の１つ。画面の中心部のスポット測光サークル内だけで測光します。
測光インジケーター（41、47、49）	カメラの設定に応じて、3種類の使い方があります。 Ｍモード：カメラが測光した露出値と、撮影者が選んだ露出値が表示されます。 露出補正：撮影者が設定した露出補正値が表示されます。 AEロック：AEロック（固定）された露出値と、構図を変えた後のスポット測光サークル内の測光値が表示されます。
前後ダイヤル機能ロック（91）	前後ダイヤルを回しても操作を受け付けなくすることができます。
ダイヤルによる露出補正値の設定（95）	後ダイヤルを回して露出補正値を設定することができます。
中央重点的平均測光（45）	測光方式の１つ。画面の中央部を重点的に、画面全体の明るさを平均的に測光します。
低速（サイレント）巻き戻し（90）	巻き戻しの音を小さくすることができます。
被写界深度（100）	写真として実用上ピントが合って写る範囲のこと。絞りを開ければ被写界深度は浅く、絞り込めば深くなります。
フィルム指定コマ送り機能（85）	最終コマになる前に途中で巻き戻したフィルムを、もう一度カメラに入れたときに、撮影者が指定したコマまでフィルムを進めることができます。
フィルム先端を残す・残さない（84）	巻き戻したフィルムの先端が、パトローネに完全に巻き込まれるか、一部残ったままにするかを選ぶことができます。
フォーカスホールドボタン（86）	このボタンを搭載しているレンズの場合、押している間、ピント位置が固定されます。この機能を変更することもできます。
フォーカスロック（21、32）	ピントを一時的に固定します。
フラッシュ4分割TTLダイレクト調光（59、95）	フラッシュ発光時には、画面全体を4分割して調光します。他の調光方式に変更することもできます。
マニュアルシフト（42）	Ｍモードで露出を固定したまま、シャッター速度と絞り値の組み合わせを変えることができます。
リバーサルフィルム	スライドや印刷用に使われるフィルム。微妙な色彩を表現できる一方、一般的なネガフィルムと比べて厳密な露出が要求されます。
露出補正設定段数の切り替え（47）	露出補正や測光インジケーターの表示を、1/2段または1/3段ごとにします。
レリーズ優先（84）	ピントが合わなくても、シャッターボタンを押したときにシャッターが切ることができます。（⇔オートフォーカス優先）
ローカルフォーカスフレーム（30、91）	ピントが合った位置（ローカルフォーカスフレーム）が、一瞬赤く光ります。希望のローカルフォーカスフレームを指定したり、光るタイミングを変えることもできます。
ワンショットAF（29）	シャッターボタン半押しでピントが合い、そこでピント位置が固定されます。
PA/Psシフト（93）	Ｐモードで露出を固定したまま、一時的に絞り値とシャッター速度の組み合わせを変えることができます。
14分割ハニカムパターン測光（44）	測光方式の１つ。画面全体を14分割して測光します。一般撮影全体に適しています。

ミノルタ株式会社
ミノルタ販売株式会社

フォトサポートセンター

弊社製品のカメラ、交換レンズ、デジタルカメラ、フィルムスキャナ、露出計など写真や画像に関わる製品の機能、使い方、撮影方法などのお問い合わせをお受けいたします。

ナビダイヤル　0570-007111

ナビダイヤルは、お客様が日本全国どこからかけても市内通話料金で通話していただけるシステムです。

TEL　03-5351-9410

携帯電話・PHS等をご使用の場合はこちらをご利用ください。

FAX　03-3356-6303

受付時間　10：00～18：00（土・日・祝日定休）

9223-2098-51　P-H106